

1 顎動脈の枝はどれか。

- (1) 舌動脈
- (2) 下歯槽動脈
- (3) 眼窩下動脈
- (4) 下行口蓋動脈
- (5) 顔面動脈

a (1)、(2)、(3) ;

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

2 誤っている組合せはどれか。

- a 循環器系 ————— 心筋梗塞
- b 呼吸器系 ————— 高血圧症
- c 消化器系 ————— 肝硬変
- d 内分泌系 ————— 糖尿病
- e 神経系 ————— 老人性痴呆

3 歯周組織はどれか。

(1) エナメル質

(2) 象牙質

(3) セメント質

(4) 歯根膜

(5) 歯槽骨

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

4 エックス線被曝の遮蔽物質として用いられるのはどれか。

- a アルミニウム
- b タングステン
- c 鉄
- d 銅
- e 鉛

5 健常者の下顎第二小臼歯根尖部に認められる楕円形のエックス線透過像はどれか。

- a オトガイ孔
- b 舌 孔
- c オトガイ隆起
- d 下顎管
- e 顎下腺窩

6 体内植え込み式心臓ペースメーカーを使用している患者の動脈性出血に対する永久的止血法はどれか。

- a 圧迫
- b 血管結紮
- c 電気凝固
- d 血管捻転
- e 血管栓塞

7 大唾液腺はどれか。

- ・ a 口蓋腺
- b 臼歯腺
- c 舌 腺
- d 口唇腺
- e 舌下腺

8 急性炎症の症候で誤っているのはどれか。

a 疼 痛

b 腫 脹

c 腫 瘤

d 発 赤

e 熱 感

9 露髄の危険性のある幼若永久歯齲蝕の処置として適切なのはどれか。

- a IPC 法
- b 直接覆髄法
- c 生活歯髄切断法
- d 失活歯髄切断法
- e 麻酔抜髄法

10 出血性素因のある患者に行ってはならないのはどれか。

- a 表面麻酔
- b 皮下注射
- c 歯根膜腔内注射
- d 浸潤麻酔
- e 下顎孔伝達麻酔

11 麻薬の保管場所で適切なのはどれか。

- a デシケータ
- b 専用棚
- c 冷蔵庫
- d 重量金庫
- e 引き出し

12 ジュネーブ宣言に謳われているのはどれか。

- a 人体実験の禁止
- b 患者の権利に関する世界医師会の宣言
- c 肉体的、精神的に抵抗力を弱める行為の禁止
- d 人道的目標に向けての医師の奉仕宣言
- e ヘルスプロモーションへの取り組みの宣言

13 歯科医師法に定められた歯科医師の業務はどれか。

- (1) 就学時の健康診断
- (2) 診断書の交付
- (3) 処方せんの交付
- (4) 保険医の登録
- (5) 酸取り扱い者の健康診断

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

14 フッ化物歯面塗布薬として用いるのはどれか。

- a 0.1% フッ化第一スズ
- b 0.8% フッ化水素
- c 1% フッ化第二スズ
- d 2% フッ化ナトリウム
- e 10% フッ化アミン

- 15 小児の歯科治療における対応で正しいのはどれか。
- a 抑制法は母子分離下で行うと有効である。
 - b TSD 法は非協力的な低年齢児に有効である。
 - c 笑気吸入鎮静法では笑気 90% と酸素 10% との混合ガスを用いる。
 - d 前投薬は治療開始 5 分前に服用させると効果的である。
 - e 全身麻酔法は重度の障害児に適している。

16 症状と投薬との組合せで誤っているのはどれか。

- (1) アナフィラキシーショック ————— ニトログリセリン
- (2) けいれん発作 ————— ジアゼパム
- (3) 心室性期外収縮 ————— リドカイン
- (4) 徐 脈 ————— 硫酸アトロピン
- (5) 喘息発作 ————— アスピリン

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

17 バイタルサインの測定で対象とならないのはどれか。

a 血 圧

b 脈 拍

c 呼 吸

d 体 温

e 痛 覚

18 正しいのはどれか。

- (1) 齲蝕病巣内に細菌は存在しない。
- (2) 齲蝕病巣はエックス線不透過像を示す。
- (3) エナメル質齲蝕は痛みを伴う。
- (4) 齲蝕は細菌由来の酸によって起こる。
- (5) 唾液分泌量の減少は齲蝕を誘発する。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

19 咬合接触状態の診察法で適切でないのはどれか。

- a ワックスを咬ませ穿孔部位をみる。
- b タッピング時の咬合音を聴く。
- c タッピング時の歯を触診する。
- d 開閉口運動を観察する。
- e 咬合紙を引き抜いて抵抗をみる。

20 メタルインレーを患者の口腔内に落下させたが見当たらない。

誤っている対応はどれか。

- a 側臥位にして背中を叩く。
- b 咳が出なければ治療を続行する。
- c 咽頭部に貯留していないかを確認する。
- d エックス線画像検査を依頼する。
- e 排泄物の内容を調べるように指示する。

21 歯種と出現しやすい位置異常との組合せで誤っているのはどれか。

- a 上顎側切歯 ————— 口蓋側転位
- b 下顎側切歯 ————— 舌側転位
- c 上顎犬歯 ————— 唇側転位
- d 上顎第一大臼歯 ————— 低位
- e 下顎第三大臼歯 ————— 近心傾斜

22 咬合の診査で用いられる水平基準面はどれか。

- (1) カンペル平面
- (2) フランクフルト平面
- (3) 正中矢状平面
- (4) 眼窩平面
- (5) 下顎下縁平面

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

23 印象採得時の嘔吐反射で誤っているのはどれか。

- a 印象用トレーの形状が関係する。
- b 患者の心理的要素が影響する。
- c 小児より成人で多発する。
- d 印象材の量が関係する。
- e 採得時の頭位が関係する。

24 成人男性の安静時における正常範囲内の値はどれか。

- a 脈拍数 20 回/分
- b 血圧 135/87 mmHg
- c 呼吸数 30 回/分
- d 腋窩温度 38.0°C
- e 赤沈 1 時間値 15 mm

25 22歳の男性。下顎左側第三大臼歯周囲の疼痛を主訴として来院した。4日前に疼痛が出現したという。初診時の体温は38.5℃、左側頬部の腫脹が高度で、開口域は18 mmである。白血球数は12,000/ μ l、CRP強陽性である。

まず行うべき治療法はどれか。

- a レーザー療法
- b 開口訓練
- c 抗真菌薬による含嗽
- d 抗菌薬の投与
- e 18の抜歯

26 23歳の男性。椅坐位にて局所麻酔中に不快感を訴えたので操作を中止した。脈拍数 108 回/分、血圧 172/82 mmHg で、期外収縮はなく、呼吸数 20 回/分である。

まず行うべき処置はどれか。

- a トレンデレンブルグ体位にする。
- b 衣服を緩め安静にさせる。
- c 副腎皮質ステロイド薬を投与する。
- d リドカインを投与する。
- e エピネフリンを投与する。

27 単純エックス線画像で明瞭に描出されるのはどれか。

- a 鰓嚢胞
- b 歯肉嚢胞
- c 原始性嚢胞
- d ガマ腫
- e 鼻歯槽嚢胞

28 歯科医師が掌るべきもので、歯科医師法に定められているのはどれか。

- (1) 社会福祉
- (2) 社会保障
- (3) 社会奉仕
- (4) 歯科医療
- (5) 保健指導

- a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

29 エナメル質よりも硬度の高い修復材料はどれか。

- a アマルガム
- b コンポジットレジン
- c 金合金
- d 金銀パラジウム合金
- e 陶 材

30 吸水性の高い材料はどれか。

- (1) グラスアイオノマーセメント
- (2) 金銀パラジウム合金
- (3) 金合金
- (4) 陶 材
- (5) コンポジットレジン

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

31 DNA の塩基配列を特異的に認識して切断するのはどれか。

- a DNA ポリメラーゼ
- b DNA リガーゼ
- c リボヌクレアーゼ
- d 逆転写酵素
- e 制限酵素

32 慢性腎不全による骨粗鬆症に有効なのはどれか。

- a 副甲状腺ホルモン
- b トコフェロール
- c インスリン
- d 活性型ビタミン D₃
- e チロキシシン

33 RNAに含まれない塩基はどれか。

- a アデニン
- b ウラシル
- c グアニン
- d シトシン
- e チミン

34 開口筋運動ニューロンで正しいのはどれか。

- (1) 橋に位置する。
- (2) α 、 β 及び γ ニューロンに分類される。
- (3) 三叉神経節由来の一次求心線維とシナプスをなす。
- (4) 三叉神経中脳路核ニューロンとシナプスをなす。
- (5) 数は閉口筋運動ニューロンよりも少ない。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

35 味覚情報の伝達に関与するのはどれか。

- (1) 膝神経節
- (2) 三叉神経主感覚核
- (3) 迷走神経背側核
- (4) 孤束核
- (5) 視床後腹側内側核 (VPM)

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

36 正しいのはどれか。

- (1) 唾液分泌量は就寝時に増大する。
- (2) 唾液分泌速度が増加すると Na^+ 濃度は低下する。
- (3) 唾液の浸透圧は血液より高い。
- (4) 安静時の相対分泌比は顎下腺が最も大きい。
- (5) 交感神経刺激で唾液は粘稠性になる。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

37 咳に伴い、泡を含む鮮紅色の血液を吐いた。

疑われる病変部位はどれか。

a 鼻 腔

b 肺

c 胃

d 食 道

e 歯 肉

38 上顎正中部の嚢胞性病変で、壁組織に大きな血管と神経線維とを認めるのはどれか。

- a 術後性上顎嚢胞
- b 含歯性嚢胞
- c 切歯管嚢胞
- d 原始性嚢胞
- e 鼻歯槽嚢胞

39 視床下部が受容するのはどれか。

- (1) O_2 分圧
- (2) CO_2 分圧
- (3) 血液浸透圧
- (4) 血 糖
- (5) 体 温

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

40 正しいのはどれか。

- (1) 味覚情報は視床を經由し大脳皮質に伝達される。
- (2) 味覚を受容する一次求心線維は孤束核に終止する。
- (3) 旨味は4基本味の一つに属する。
- (4) 味蕾は糸状乳頭にある。
- (5) 食塩に対する感度は舌尖部が最も高い。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

41 歯髄神経で正しいのはどれか。

- a $A\beta$ 線維が最も多い。
- b エナメル象牙境に神経線維終末が存在する。
- c 自律神経を含まない。
- d 象牙質への侵害刺激にのみ反応する。
- e 感覚神経は三叉神経脊髄路核に投射する。

42 開口反射で正しいのはどれか。

- a 侵害刺激のみによって誘発される。
- b 反射弓は単シナプス性である。
- c 片側の刺激で両側性に生じる。
- d 下顎安静位を決める要因の一つである。
- e 閉口筋活動に影響しない。

43 咬筋筋紡錘で正しいのはどれか。

- (1) 密度は他の咀嚼筋と等しい。
- (2) 求心線維の細胞体は三叉神経感覚核にある。
- (3) 求心線維は開口筋運動神経とシナプスをつくる。
- (4) 求心線維はⅠ群とⅡ群とからなる。
- (5) γ 運動ニューロンが支配する。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

44 高齢者の無歯顎骨にみられるのはどれか。

- (1) 歯槽部の吸収
- (2) 基底骨の肥厚
- (3) 赤色骨髄
- (4) 骨塩量の減少
- (5) 下顎角の開大

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

45 血管透過性を亢進させるのはどれか。

- (1) ヒスタミン
- (2) フィブリン
- (3) ロイコエグレシン
- (4) $C3_a$
- (5) サブスタンス P

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

46 自己免疫疾患はどれか。

(1) Behçet 病

(2) 慢性関節リウマチ

(3) 尋常性天疱瘡

(4) ヘルパンギーナ

(5) 帯状疱疹

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

47 下顎第三大臼歯の半埋伏で見られるのはどれか。

- (1) セメント質の肥厚
- (2) 骨 折
- (3) 顔面神経麻痺
- (4) 齲 蝕
- (5) 歯冠周囲炎

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

48 微生物で正しいのはどれか。

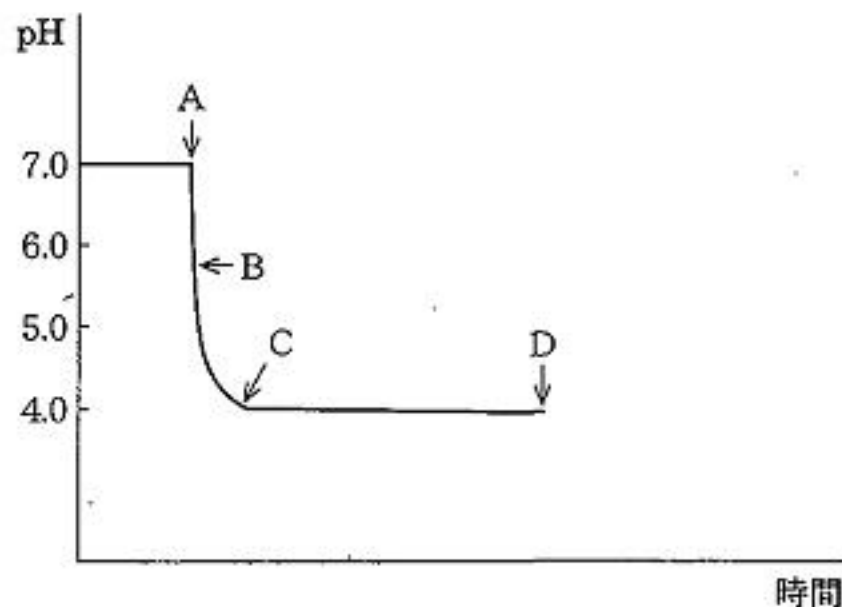
- (1) 芽胞形成性の細菌は消毒薬で殺菌される。
- (2) 真菌は原核細胞生物に属する。
- (3) ウイルスは通性細胞内寄生性を特徴とする。
- (4) 細胞性微生物は DNA と RNA とを持っている。
- (5) 遺伝情報は DNA によって伝えられる。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

- 49 ヒトの免疫で正しいのはどれか。
- a 白血球はT細胞とB細胞とに分けられる。
 - b マクロファージの寿命は顆粒球より短い。
 - c 分泌型 IgA には4つの抗原結合部位がある。
 - d 肥満細胞は抗体の産生を行う。
 - e ヘルパーT細胞は抗原提示を行う。

- 50 齧蝕が細菌性であることを示しているのはどれか。
- a 齧蝕は無菌動物には発生しない。
 - b フッ素は齧蝕予防に有効である。
 - c エナメル質は酸性飲食物の過剰摂取で脱灰される。
 - d 歯質は pH 5.5 以下で脱灰される。
 - e 脱灰された歯質は再石灰化される。

51 歯垢に砂糖を加えた場合の pH 変化を図に示す。



誤っているのはどれか。

- a Aでは砂糖を加えた。
- b Bでは歯垢細菌が活発に酸を産生している。
- c CではAに比べて3倍量の酸の産生があった。
- d Cでは砂糖がまだ残っている。
- e D以後、次第に pH が上昇し元の pH に戻る。

52. IgE に親和性を持つ細胞はどれか。

- a マクロファージ
- b マスト細胞
- c T細胞
- d B細胞
- e 好中球

53 生ワクチンが有効なのはどれか。

- a ポリオ
- b インフルエンザ
- c B型肝炎
- d C型肝炎
- e 日本脳炎

54 ツベルクリン反応に関係する細菌はどれか。

- a ペスト菌
- b ジフテリア菌
- c 結核菌
- d ライ菌
- e 百日咳菌

55 歯周炎と関連の深い細菌はどれか。

(1) *Proteus vulgaris*

(2) *Bacteroides fragilis*

(3) *Porphyromonas gingivalis*

(4) *Bacteroides forsythus*

(5) *Clostridium difficile*

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

56 復古形とされているのはどれか。

- a Turner 歯
- b タウロドント
- c 癒合歯
- d 歯内歯
- e エナメル滴

57 鰓弓性神経はどれか。

- a 動眼神経
- b 外転神経
- c 顔面神経
- d 内耳神経
- e 舌下神経

58 蝶形骨にあるのはどれか。

- a 舌下神経管
- b 乳突孔
- c 茎乳突孔
- d 頸動脈管
- e 翼突管

59 舌を突出させる筋はどれか。

- a 縦舌筋
- b 横舌筋
- c 舌骨舌筋
- d オトガイ舌筋
- e 茎突舌筋

60 第一鰓弓由来の筋はどれか。

- a □蓋帆張筋
- b □蓋帆挙筋
- c □蓋咽頭筋
- d □蓋舌筋
- e □蓋垂筋

61 医療面接の主たる目的はどれか。

- (1) 医療情報の収集
- (2) 患者との関係の確立
- (3) 患者の教育
- (4) 治療計画の立案
- (5) 医療機関相互の連携

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

62 根拠に基づいた医療 (EBM) の要素でないのはどれか。

- a 患者の問題点を明確にする。
- b 先輩の意見を重視して判断する。
- c コンピュータによる論文検索をする。
- d 論文を批判的に吟味する。
- e 統計処理の妥当性を判断する。

63 放射線防護で用いられる実効線量の単位はどれか。

a Gy

b Sv

c Bq

d C/kg

e eV

64 歯科用エックス線撮影装置で正しいのはどれか。

- (1) 管電圧は 80 ～ 90 kV が多い。
- (2) 総ろ過は 2.0 mmAl 当量以上である。
- (3) デッドマン方式のタイマーを用いる。
- (4) 焦点－皮膚間距離は 20 cm 以上である。
- (5) 可変式の多重絞りをを用いる。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

65 口内法エックス線撮影で平行法が二等分法より優れているのはどれか。

- a 撮影時間が短い。
- b 照射野が小さい。
- c 像の歪みが少ない。
- d 像が拡大される。
- e 焦点－被写体間距離が短い。

66 下顎骨体部に膨隆性の病変が疑われたときに、選択すべきエックス線撮影法はどれか。

- (1) パノラマエックス線撮影法
- (2) 咬合法の軸方向投影法
- (3) 頭部軸方向撮影法
- (4) 頭部側方向撮影法
- (5) Waters 撮影法

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

- 67 顎下部に腫瘍を触れたときに、まず行うべき画像検査はどれか。
- a 超音波検査
 - b 唾液腺造影法
 - c 断層撮影法
 - d 唾液腺シンチグラフィ
 - e エックス線 CT 検査

68 エックス線の発生に関与しないのはどれか。

- a フィラメント
- b 熱電子
- c 高電圧
- d 焦点
- e ろ過板

69 顎下腺管内唾石の診断に適した撮影法はどれか。

- a 二等分法
- b 咬翼法
- c 咬合法
- d 頭部軸方向撮影法
- e 頭部側方向撮影法

70 歯科用デジタルエックス線撮影システムの特徴はどれか。

(1) 画像を電子媒体に保管できる。

(2) 画像の伝送ができる。

(3) 被曝線量が多い。

(4) 画像の検索に時間を要する。

(5) 画像処理ができる。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

71 ガンマ線を利用する画像検査法はどれか。

- a エックス線 CT 検査
- b 磁気共鳴画像検査 (MRI)
- c シンチグラフィ
- d IVR
- e 超音波検査

72 平滑舌と貧血とを伴った患者に鉄剤を投与したところ治癒した。
考えられるのはどれか。

- a Plummer-Vinson 症候群
- b Hunter 舌炎
- c Sjögren 症候群
- d 尋常性天疱瘡
- e Behçet 病

73 頸部に数珠状のリンパ節の腫脹がみられるのはどれか。

a カンジダ症

b 結核

c 梅毒

d 放線菌症

e リンパ管腫

74 3歳の男児。2日前に発熱し、その後平熱になるも両側頬粘膜に紅斑に囲まれた灰白色で粟状の斑点が多数発現した。

考えられる疾患はどれか。

- a 水痘
- b 帯状疱疹
- c 単純疱疹
- d 風疹
- e 麻疹

75 アナフィラキシーショックでみられない症状はどれか。

- (1) 発熱
- (2) じんま疹
- (3) 過換気
- (4) 血圧上昇
- (5) 胸内苦悶

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

76 NLA 原法に用いられる薬物はどれか。

- (1) チオペンタールナトリウム
- (2) トリアゾラム
- (3) ドロペリドール
- (4) クエン酸フェンタニル
- (5) ハロタン

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

77 顔貌変化で正しい組合せはどれか。

- a 満月様 ————— 副腎皮質ステロイド薬長期内服
- b 仮面様 ————— 癌性悪液質
- c 三日月様 ————— Le Fort I 型骨折
- d 苦悶状 ————— Parkinson 症候群
- e ヒポクラテス様 ————— 三叉神経痛

78 アスピリンの作用でないのはどれか。

- (1) 血栓溶解
- (2) 抗不整脈
- (3) 血圧上昇
- (4) 喘息発作誘発
- (5) 消化性潰瘍誘発

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

79 薬物動態で高齢になると増加するのはどれか。

- a 分布容積
- b 生物学的半減期
- c バイオアベイラビリティ
- d 腎クリアランス
- e 肝血流量

80 服薬上、相互作用で問題とならないのはどれか。

- a カルシウム製剤とテトラサイクリン
- b お茶と鉄剤
- c ニューキノロン系抗菌薬とジクロフェナクナトリウム
- d アミノグリコシド系抗菌薬とペニシリン系抗菌薬
- e アルコール飲料と第三世代セフェム系抗菌薬

81 顎関節症の特徴的な症状はどれか。

- (1) 口唇の感覚障害
- (2) 閉口障害
- (3) 最大開口量の減少
- (4) 顎関節の雑音
- (5) 咀嚼筋の疼痛

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

82 鼻咽腔閉鎖機能の検査で誤っているのはどれか。

- a 声を出して文章を読む。
- b コップの水をストローで飲む。
- c 物性の異なる食品を咀嚼する。
- d 風船を大きく膨らます。
- e 手鏡に鼻息をかける。

83 感覚機能と検査法との組合せで正しいのはどれか。

- a 平衡機能 ————— 眼圧検査
- b 聴 覚 ————— オルファクトメトリ
- c 嗅 覚 ————— オージオメトリ
- d 味 覚 ————— 濾紙ディスク法
- e 視機能 ————— 二点識別検査

84 嘔吐反射が強い患者の上顎歯列をアルジネート印象採得するときの適切な対応はどれか。

(1) 印象材を軟らかく練和する。

(2) 舌を突出させる。

(3) 頭部を前傾させる。

(4) 鼻呼吸をさせる。

(5) 軟口蓋に表面麻酔を行う。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

85 エックス線 CT 値の基準はどれか。

- a 水
- b 骨
- c 歯
- d 筋
- e 脂 肪

86 放射線感受性が高いのはどれか。

- (1) 腺様嚢胞癌
- (2) 悪性リンパ腫
- (3) 扁平上皮癌
- (4) 悪性黒色腫
- (5) 骨肉腫

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

87 口腔の悪性腫瘍の放射線治療で正しいのはどれか。

- a 粘膜炎は治療開始半年以降に出現する。
- b 照射野内の抜歯は照射前に行う。
- c 照射野外では齲蝕は多発しない。
- d 歯の形成障害は出現しない。
- e 耳下腺の機能障害は早期に回復する。

88 慢性増殖性歯髄炎の特徴はどれか。

- (1) 自発痛がある。
- (2) 温度刺激に敏感となる。
- (3) 歯の動揺が著しい。
- (4) 若年者に多い。
- (5) 露髄が認められる。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

89 歯髄の生死を鑑別するのはどれか。

(1) 打診

(2) インピーダンス測定検査

(3) 温度診

(4) 電気診

(5) 麻酔診

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

90 薬物の副作用で正しい組合せはどれか。

- (1) クロラムフェニコール ————— 再生不良性貧血
- (2) テトラサイクリン ————— 歯質の着色
- (3) ニフェジピン ————— 歯肉肥大
- (4) クロルプロマジン ————— 腎障害
- (5) アトロピン ————— 唾液分泌促進

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

91 O'Leary の PCR で 25 歯の被検歯中 25 歯面が陽性であった。

PCR 値で正しいのはどれか。

- a 20 %
- b 25 %
- c 33 %
- d 50 %
- e 100 %

92 DMFS 指数の算出式の分母はどれか。

- a 被検者数
- b 被検歯数
- c 被検歯面数
- d DMF 歯の合計
- e DMF 歯面数の合計

- 93 PMA 指数で正しいのはどれか。
- a 歯肉炎の程度を示す。
 - b $\frac{3}{3} \sim \frac{3}{3}$ の最高値は 34 である。
 - c WHO のプローブを使用する。
 - d 歯石を数値化している。
 - e 歯周ポケットの深さを測定する。

94 唾液中の高プロリン糖タンパク質の作用で正しいのはどれか。

(1) ペリクル形成作用

(2) 潤滑作用

(3) 細菌凝集作用

(4) 緩衝作用

(5) 抗菌作用

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

95 学校保健で正しいのはどれか。

- a 健康診断で有病率が最も高いのは近視である。
- b 就学時の健康診断は就学後 1 か月以内に行う。
- c 児童、生徒の健康診断は毎年 6 月 30 日までに行う。
- d 学校職員の健康診断は労働基準法に規定されている。
- e 健康診断の結果は 1 週以内に保護者に通知する。

96 経口感染を起こすのはどれか。

- (1) ロタウイルス
- (2) ポリオウイルス
- (3) 麻疹ウイルス
- (4) 水痘-帯状疱疹ウイルス
- (5) ヒト免疫不全ウイルス(HIV)

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

97 ヒト免疫不全ウイルス(HIV)に有効な消毒薬はどれか。

- (1) グルタルアルデヒド
- (2) フェノール
- (3) 塩化ベンザルコニウム
- (4) 次亜塩素酸ナトリウム
- (5) ポビドンヨード

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

98 食塩の過剰摂取がリスクファクターとなる生活習慣病はどれか。

- (1) 高血圧症
- (2) 糖尿病
- (3) 肝硬変
- (4) 痛 風
- (5) 脳卒中

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

99 毒素型食中毒を起こす細菌はどれか。

- (1) 腸炎ビブリオ
- (2) ブドウ球菌
- (3) ボツリヌス菌
- (4) サルモネラ菌属
- (5) エルシニア

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

100 スクリーニング検査法の要件で適切でないのはどれか。

- a 測定者によるバラツキが少ない。
- b 敏感度も特異度も低い。
- c 費用がかからない。
- d 危険を与えない。
- e 数量化が容易である。

101 齲蝕のハイリスク者はどれか。

- (1) 間食の回数が多い。
- (2) 唾液の分泌量が少ない。
- (3) 先天的にフルクトース耐容能が低い。
- (4) 肉類の摂取量が多い。
- (5) ミュータンスレンサ球菌が多い。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

102 記述疫学で正しいのはどれか。

- (1) 動物での検証
- (2) 集団検診
- (3) 仮説の導出
- (4) 患者対照研究
- (5) コホート研究

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

103 人体に対する放射線影響のうち、しきい値のないのはどれか。

- a 白内障
- b 脱 毛
- c 小頭症
- d 白血病
- e 不 妊

104 振動による障害の局所症状で正しいのはどれか。

- (1) 手指の知覚過敏
- (2) 皮膚温の上昇
- (3) 手指の蒼白
- (4) 筋肉の痛み
- (5) 手根の運動制限

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

105 地球環境変化の組合せで正しいのはどれか。

- (1) 地球温暖化 ————— フロンガスの使用
- (2) オゾン層破壊 ————— ダイオキシンの発生
- (3) 酸性雨 ————— 二酸化炭素の大量発生
- (4) 海洋汚染 ————— 原油の流出
- (5) 砂漠化 ————— 家畜の過放牧

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

106 水質汚濁の指標のうち酸素飽和度を示すのはどれか。

- a 生物学的酸素要求量
- b 化学的酸素要求量
- c 溶存酸素
- d 浮遊物質
- e 水素イオン濃度

107 特別管理産業廃棄物に該当しないのはどれか。

- a 肝炎患者の歯列模型
- b エックス線フィルムの定着液
- c 採血した注射針
- d 使用済ディスプレイサブル手袋
- e 使用済ガーゼ

108 平成 11 年歯科疾患実態調査における 12 歳児の一人平均 DMF 歯数はどれか。

a 4.9

b 3.6

c 3.0

d 2.4

e 2.0

109 歯科医療機関が標榜できる診療科名を定めている法律はどれか。

- a 健康保険法
- b 医療法
- c 歯科医師法
- d 薬事法
- e 地域保健法

110 歯科医師法の規定で誤っているのはどれか。

- a 診療をしたときは、本人や保護者に保健指導を行う義務がある。
- b 歯科医師国家試験は臨床上必要な歯科医学及び口くう衛生に関して行う。
- c 歯科医師でなければ歯科医業をなしてはならない。
- d 歯科医師は2年ごとに氏名、住所を住所地の都道府県知事に届け出る。
- e 診療をしたときは、1か月以内に診療録に記載しなければならない。

1. 3 歳児の健康な歯周組織で正しいのはどれか。

- a セメント質は厚い。
- b 歯根膜腔は狭い。
- c ステップリングは不明瞭である。
- d 遊離歯肉の幅は広い。
- e 歯肉溝は浅い。

2 ディスタルシュー保隙装置で正しいのはどれか。

- (1) Hellman の歯齡Ⅱ A期に用いる。
- (2) 第二小臼歯の萌出余地を確保する。
- (3) 咀嚼機能を回復させる。
- (4) 1 回の来院で製作される。
- (5) 技工作業が必要である。

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| a (1)、(2)、(3) | b (1)、(2)、(5) | c (1)、(4)、(5) |
| d (2)、(3)、(4) | e (3)、(4)、(5) | |

3 先天性表皮水疱症にみられるのはどれか。

- a 歯髄腔の閉塞
- b エナメル質の形成不全
- c 象牙細管の走向異常
- d 歯冠の短小
- e 歯根の彎曲

4 Hellman の歯齡ⅡC期の第一大臼歯の特徴はどれか。

- a 自浄作用が働きにくい。
- b 咬合が安定している。
- c 齲蝕感受性が低い。
- d 臨床的歯冠が長い。
- e 咬耗が著しい。

5 幼若永久歯の歯内療法に用いられるのはどれか。

- (1) ガッタパーチャポイント
- (2) FC
- (3) 水酸化カルシウム
- (4) 酸化亜鉛ユージノールセメント
- (5) パラホルムアルデヒド

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

6 低位乳歯で正しいのはどれか。

- (1) 歯槽骨の病的吸収が原因である。
- (2) 後継永久歯の萌出が遅延しやすい。
- (3) 好発部位は下顎乳臼歯である。
- (4) 歯冠に形態異常がみられる。
- (5) 発現頻度は 10 ～ 15 % である。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

7 誤っているのはどれか。

- a 血友病は常染色体劣性遺伝による。
- b 血小板減少症では粘膜下出血が生じる。
- c 慢性白血病では歯肉壊死が生じる。
- d 鉄欠乏性貧血は若い女性に多い。
- e 再生不良性貧血では赤血球数が減少する。

8 乳歯が外傷を受けた直後の診査項目で有用でないのはどれか。

- a 歯髄の生活反応
- b 歯根膜腔の変化
- c 歯冠歯質の色調
- d 打診による反応
- e 後継永久歯の位置

9 ウイルス感染症で舌病変を呈するのはどれか。

(1) 水 痘

(2) 麻 疹

(3) 風 疹

(4) ヘルパンギーナ

(5) 手足口病

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

10 正しい組合せはどれか。

(1) エプーリス ————— 切 除

(2) 上皮真珠 ————— 摘 出

(3) 萌出嚢胞 ————— 摘 出

(4) 粘液嚢胞 ————— 開 窓

(5) 口底膿瘍 ————— 切 開

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

11 歯髓腔の異常がみられる疾患はどれか。

- a 無汗型外胚葉異形成症
- b エナメル質形成不全症
- c 鎖骨頭蓋骨異形成症
- d Pierre Robin 症候群
- e 象牙質異形成症

12 Hellman の歯齡ⅡA期の咬翼法エックス線写真で確認できるのはどれか。

- a 後継永久歯胚
- b 隣接面齲蝕
- c 歯根吸収状態
- d 咬合状態
- e 根尖部破折線

13 Nance のホールディングアーチで正しいのはどれか。

- a 主線は切歯舌側歯頸部に接触させる。
- b 下顎の多数歯早期喪失に用いる。
- c 上顎第一大臼歯の近心移動防止のために用いる。
- d 装着後に齲蝕が発生する危険性が高い。
- e 矯正治療後の保定装置として用いる。

14 正しい組合せはどれか。

- (1) チアノーゼ ————— 先天性心室中隔欠損症
- (2) 点状出血 ————— 流行性耳下腺炎
- (3) 太鼓撥指 ————— アトピー性皮膚炎
- (4) 眼瞼下垂 ————— 痙直型脳性麻痺
- (5) 満月様顔貌 ————— ネフローゼ症候群

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

15 正しいのはどれか。

- a 吸指癖は前歯部開咬の誘因となる。
- b 口呼吸は下顎近心咬合の誘因となる。
- c 舌突出癖では咀嚼筋の緊張がみられる。
- d 異常嚥下癖では口輪筋の弛緩がみられる。
- e 歯ぎしりは覚醒下で誘発される。

- 16 4歳の女兒。歯の着色を主訴として来院した。出生時の体重2,320 g、身長45 cmで、出生から4か月入院し紫外線治療を受けていたという。初診時の口腔内写真(別冊No. 1)を別に示す。

歯の着色の原因として考えられるのはどれか。

- a 栄養不良
- b 新生児メレナ
- c 先天性ポルフィリン症
- d 重症新生児黄疸
- e 象牙質形成不全症



17 7歳の女児。下顎切歯部の歯列不正を主訴として来院した。初診時の口腔内写真(別冊No. 2)を別に示す。

考えられる対応はどれか。

- a 経過観察
- b $\overline{B|B}$ の抜歯
- c $\overline{CB|BC}$ の抜歯
- d $\overline{C|C}$ のトリミング
- e 正中離開の閉鎖



18 6歳の男児。定期診査を希望して来院した。来院時のエックス線写真(別冊 No. 3)を別に示す。

適切な所見はどれか。2つ選べ。

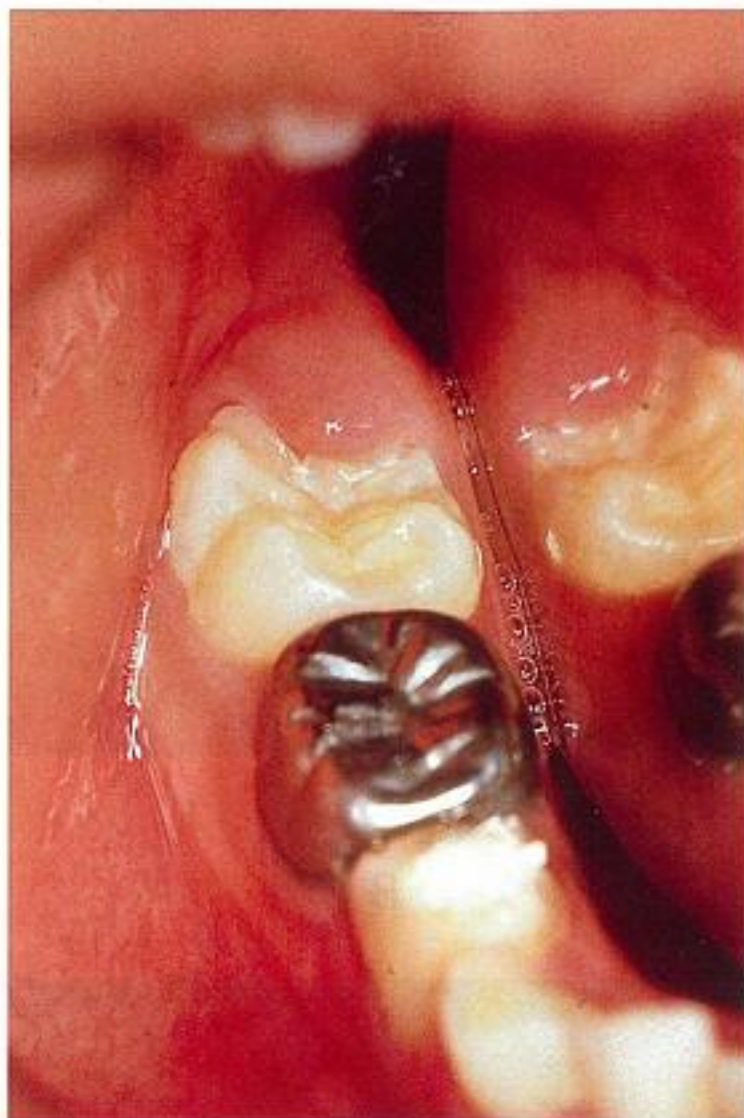
- a Hellman の歯齢はⅢ A期である。
- b 下顎切歯が1歯不足している。
- c 犬歯の歯冠の位置は正常である。
- d 下顎第二小臼歯が1歯不足している。
- e 第一大臼歯の歯根形成は遅延している。



19 6歳の男児。下顎右側大白歯部の疼痛を主訴として来院した。1週間前から摂食時に痛みを訴え、硬い食品を避けるようになったという。初診時の口腔内写真(別冊No. 4)を別に示す。

適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a ブラッシング指導
- b 摂食嚥下指導
- c 歯肉弁切除
- d 歯肉弁移動術
- e フラップ手術



20 2歳3か月の女児。外傷を主訴として来院した。前日、外出先で転倒し、顔面を強打したという。初診時の口腔内写真(別冊No. 5A)とエックス線写真(別冊No. 5B)とを別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 抜 髄
- b 整 復
- c 整復固定
- d 再 植
- e 抜 歯



21 4歳2か月の男児。下顎左側乳臼歯部歯肉の腫脹を主訴として来院した。3か月前にD Eの齲蝕に気づき治療を受けたが、3日前からD部頬側歯肉に小豆大の腫脹を生じたという。初診時の口腔内写真(別冊No. 6A)とエックス線写真(別冊No. 6B)とを別に示す。

Dに対する適切な処置はどれか。

- a 断 髄
- b 抜 髄
- c 感染根管治療
- d ヘミセクション
- e 抜 歯



22 3歳の男児。摂食時の疼痛を主訴として来院した。1週前に発症し、38.0℃の発熱と歯肉出血とがあったという。強い口臭と顎下リンパ節の腫脹とが認められる。初診時の顔面写真(別冊No. 7A)と口腔内写真(別冊No. 7B、C)とを別に示す。

疑われる疾患はどれか。

- a 水痘
- b 手足口病
- c 好中球減少症
- d アフタ性口内炎
- e ヘルペス性歯肉口内炎



23 5歳の女兒。舌表面の異常を主訴として来院した。自覚症状はないが、舌表面の模様は日によって変化するという。初診時の口腔内写真(別冊No. 8)を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 経過観察
- b 抗菌薬の投与
- c 抗真菌薬の投与
- d 副腎皮質ステロイド軟膏の塗布
- e ビタミンAの投与



24 13歳の女子。上顎中切歯歯頸部の白濁を主訴として来院した。初診時の口腔内写真(別冊No. 9)を別に示す。

適切な処置はどれか。

- a フッ化ジアンミン銀塗布
- b フッ化物歯面塗布
- c 歯面研磨
- d グラスアイオノマーセメント修復
- e コンポジットレジン修復



25 ウォーキングブリーチ法で正しいのはどれか。

- (1) 過酸化水素水とチオ硫酸ナトリウムとを混和する。
- (2) 処置前に緊密な根管充填を行う。
- (3) ラバーダム防湿下で行う。
- (4) 薬剤の貼付後に紫外線で活性化する。
- (5) 薬剤の貼付後に髄室を開放する。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

26 正しい組合せはどれか。

(1) リーマー破折 ————— パイパス形成

(2) 根管壁穿孔 ————— 歯の再植法

(3) 皮下気腫 ————— 切 開

(4) 歯の内部吸収 ————— 直接覆髄法

(5) インレー誤飲 ————— 線維性食物摂取

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

27 グラスアイオノマーセメントで正しいのはどれか。

- (1) 歯質とイオン結合して接着する。
- (2) 歯質との接着にはリン酸処理が必要である。
- (3) 水分に触れると硬化が早くなる。
- (4) 周囲の歯質にフッ素イオンが浸透する。
- (5) 陶材には接着しにくい。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

28 慢性根尖性歯周炎で見られるのはどれか。

- (1) 根尖部のエックス線透過像
- (2) 瘻 孔
- (3) 拍動性の自発痛
- (4) 冷温水痛
- (5) 打診痛

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

29 歯根の外部吸収の原因で誤っているのはどれか。

- a 過剰な矯正力
- b 歯根嚢胞
- c 急性化膿性歯髄炎
- d エナメル上皮腫
- e 外 傷

30 急性化膿性根尖性歯周炎の処置で誤っているのはどれか。

- a 温罨法
- b 排膿路の確保
- c 咬合調整
- d 抗菌薬の投与
- e 根管形成

31 感染根管治療で正しい組合せはどれか。

(1) クロラムフェニコール液 ————— タンパク質凝固

(2) 次亜塩素酸ナトリウム溶液 ————— 殺 菌

(3) 過酸化水素水 ————— 発 泡

(4) EDTA液 ————— 有機質溶解

(5) 水酸化カルシウム製剤 ————— 脱 灰

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

32 感染根管治療後の根管充填の目的で正しいのはどれか。

- (1) 死腔の封鎖
- (2) 再感染の防止
- (3) 根尖歯周組織の治癒促進
- (4) デンチンブリッジの形成
- (5) 歯根破折の防止

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| a (1)、(2)、(3) | b (1)、(2)、(5) | c (1)、(4)、(5) |
| d (2)、(3)、(4) | e (3)、(4)、(5) | |

33 正しい組合せはどれか。

- (1) アペキシフィケーション ————— パラホルムアルデヒド製剤
- (2) アペキソゲネーシス ————— 水酸化カルシウム製剤
- (3) 根管洗浄 ————— 過酸化水素水
- (4) 根管貼薬 ————— 次亜塩素酸ナトリウム溶液
- (5) 生活歯髄切断法 ————— EDTA 液

- a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

34 正しい組合せはどれか。

- | | | |
|--------------|------|----------|
| (1) 慢性潰瘍性歯髄炎 | ———— | 直接覆髄法 |
| (2) 急性壊疽性歯髄炎 | ———— | 麻酔抜髄法 |
| (3) 慢性増殖性歯髄炎 | ———— | 生活断髄法 |
| (4) 急性単純性歯髄炎 | ———— | 歯髄鎮痛消炎療法 |
| (5) 急性化膿性歯髄炎 | ———— | 失活抜髄法 |

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

35 金属修復物の仕上げ研磨の目的はどれか。

- (1) 不快感の減少
- (2) 審美性の向上
- (3) 化学的抵抗性の減少
- (4) 修復物中の気泡の減少
- (5) 歯質との適合性の向上

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

36 歯肉炎が悪化しやすいのはどれか。

- a 肝 炎
- b 骨粗鬆症
- c 高血圧症
- d 肺 炎
- e 妊 娠

37 早期発症型歯周炎に関連する診査項目はどれか。

- (1) 発症年齢
- (2) 全身疾患の有無
- (3) 家族歴
- (4) 小帯の位置
- (5) 歯列の状態

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

38 歯周基本治療に含まれるのはどれか。

- a 付着歯肉幅の獲得
- b 歯槽骨の形態修正
- c 口腔前庭の拡張
- d 暫間固定
- e 新付着の獲得

39 上顎左側第一大臼歯の口蓋根に根尖部に至るエックス線透過像がある。6には自発痛があるが、齲蝕はなく、電気診に反応を示す。歯周ポケットの深さは口蓋根で12 mm、頬側根で4 mm 以下である。

疑われる疾患はどれか。

- (1) 慢性潰瘍性歯髄炎
- (2) 歯髄壊疽
- (3) 歯根肉芽腫
- (4) 上行〔上昇〕性歯髄炎
- (5) 辺縁性歯周炎

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

40 永久歯の加齢変化はどれか。

- (1) 歯髄ポリープの形成
- (2) 歯髄細胞数の減少
- (3) 歯髄腔の狭窄
- (4) 歯の内部吸収
- (5) 歯の外部吸収

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

41 歯周疾患のリスクファクターはどれか。

- (1) 喫 煙
- (2) 胃潰瘍
- (3) 胆石症
- (4) 乳 癌
- (5) 糖尿病

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

42 フラップ手術と GTR 法とに共通するのはどれか。

- (1) ポケット底への内斜切開
- (2) メンブレンによる骨欠損部の被覆
- (3) 歯周パックの使用
- (4) ルートプレーニング
- (5) 歯肉弁の縫合

- a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

43 歯周膿瘍の原因はどれか。

- (1) 仮性ポケット
- (2) フェニトインの服用
- (3) 歯頸部知覚過敏
- (4) 歯肉縁下プラーク
- (5) 全身的な抵抗力の減少

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

44 口内法エックス線検査で読影できるのはどれか。

- (1) 近遠心的歯根破折
- (2) 3 壁性骨欠損
- (3) 歯槽骨頂の位置
- (4) 垂直性骨吸収
- (5) 水平性骨吸収

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

45 ルートプレーニングで除去するのはどれか。

- a エナメル突起
- b 歯肉縁上歯石
- c 根面裂溝
- d 壊死セメント質
- e 歯面着色

46 歯の侵蝕症で正しいのはどれか。

- (1) 齲蝕とは異なる。
- (2) 先天性に生じる。
- (3) 有機酸を扱う人に好発する。
- (4) 下顎前歯部を強く侵す。
- (5) 胃液によっても生じる。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

47 歯間に食物が圧入しやすいのはどれか。

- (1) 前歯では接触点が歯冠の歯頂側 $1/4 \sim 1/5$ にある。
- (2) 臼歯では接触点が頬側寄り $1/3$ にある。
- (3) 咬合面に溝がある。
- (4) 厚さ $110 \mu\text{m}$ の金属板が入る。
- (5) 咬合平面が不揃いである。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

48 くさび状欠損で正しいのはどれか。

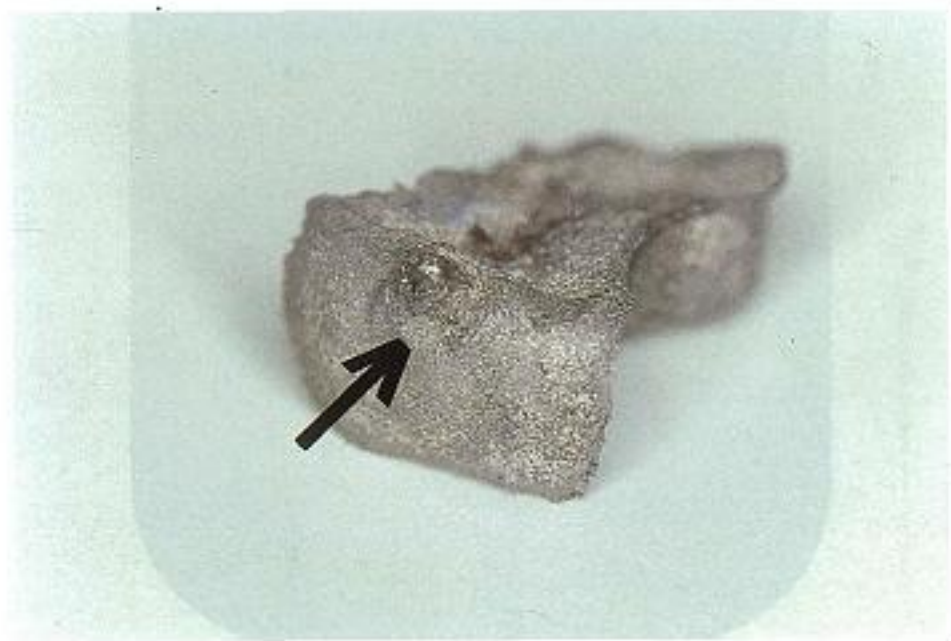
- (1) 咬合面に好発する。
- (2) 欠損面の象牙質は高度に脱灰されている。
- (3) 大臼歯に多発する。
- (4) しばしば知覚過敏を伴う。
- (5) コンポジットレジン修復が適用される。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

49 鑄造したインレーに欠陥が生じた。鑄造体の写真(別冊No. 10A)と欠陥部分(矢印)の拡大写真(別冊No. 10B)とを別に示す。

改善すべき点はどれか。

- a 鑄型温度を高くする。
- b 埋没材の混水比を大きくする。
- c 真空練和を行う。
- d 湯だまりを設ける。
- e 鑄造圧を低くする。



50 57歳の女性。上顎右側中切歯の変色を主訴として来院した。1か月前に転倒し、前歯を打撲した。1週間から歯冠の色が変化してきたという。自発痛はなく、打診や温度診にも異常はない。電気診では反応閾値が上昇しており、動揺度は1度である。初診時の口腔内写真(別冊No. 11A)とエックス線写真(別冊No. 11B)とを別に示す。

まず行うべき対応はどれか。

- a 経過観察
- b 歯の漂白
- c ラミネートベニア修復
- d 生活断髄法
- e 麻酔抜髄法



51 26歳の男性。上顎左側側切歯の冷水痛を主訴として来院した。2か月前から一過性の冷水痛を自覚するようになったという。自発痛や打診痛はなく、温熱刺激にも異常はみられない。初診時の口腔内写真(別冊No. 12A、B)とエックス線写真(別冊No. 12C)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- a アマルガム修復
- b コンポジットレジン修復
- c セラミックインレー修復
- d ラミネートベニア修復
- e メタルインレー修復



52 79歳の女性。下顎右側第二大臼歯部の冷水痛を主訴として来院した。1年前から冷水痛を自覚し、1か月前から痛みが持続するようになったという。自発痛や打診痛はなく、温熱刺激にも異常はみられない。初診時の口腔内写真(別冊No. 13A)とエックス線写真(別冊No. 13B)とを別に示す。

冷水痛の原因で考えられるのはどれか。2つ選べ。

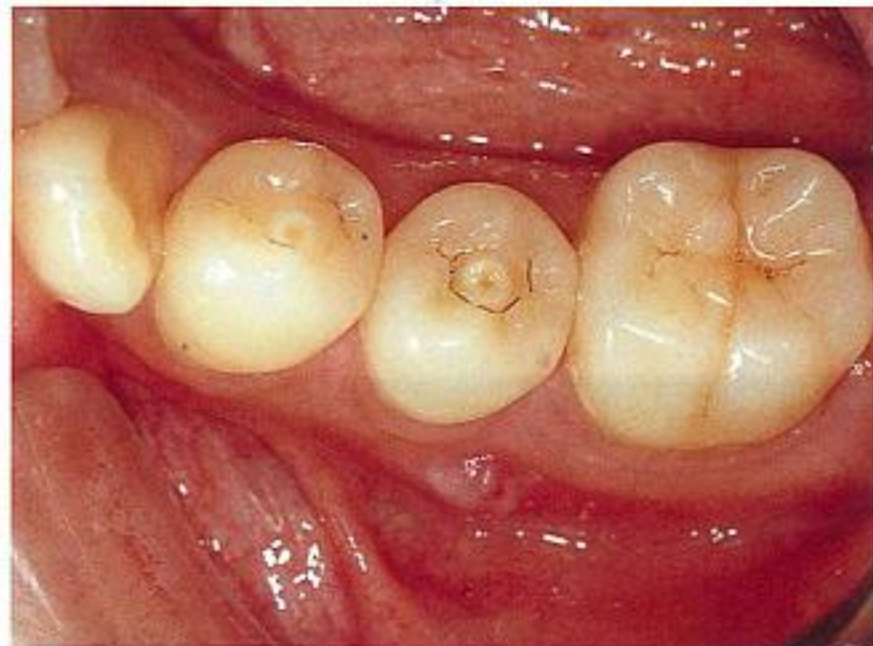
- a 咬 耗
- b 象牙質知覚過敏症
- c 齲 蝕
- d 歯冠亀裂
- e 辺縁性歯周炎



53 23歳の女性。下顎左側第二小臼歯部歯肉の腫脹と排膿とを主訴として来院した。1年前から頬側歯肉の腫脹を繰り返しているという。自発痛はない。[5]は電気診に反応せず、歯周ポケットの深さは3mm以下である。初診時の口腔内写真(別冊No. 14A、B)とエックス線写真(別冊No. 14C)とを別に示す。

疑われる原因はどれか。

- a 小窩裂溝齲蝕
- b 平滑面齲蝕
- c 辺縁性歯周炎
- d 中心結節の破折
- e 歯根破折



54 32歳の女性。下顎右側第一大臼歯の舌感不良を主訴として来院した。7年前に処置を受け、1か月前に歯質が破折し、修復物辺縁に食片が圧入するようになったという。自発痛はなく、歯髄反応にも異常は認められない。初診時の口腔内写真(別冊No. 15A)とエックス線写真(別冊No. 15B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- a アマルガム修復
- b グラスアイオノマーセメント修復
- c コンポジットレジンインレー修復
- d セラミックインレー修復
- e メタルアンレー修復



55 49歳の女性。下顎右側第二小臼歯の冷水痛を主訴として来院した。1か月前から症状があるという。5]の歯頸部に気銃で空気を吹き付けたところ、一過性の鋭い痛みを生じた。初診時の口腔内写真(別冊No. 16A)とエックス線写真(別冊No. 16B)とを別に示す。

まず行うべき対応はどれか。

- a 経過観察
- b 塩化亜鉛溶液のイオン導入
- c コンポジットレジン修復
- d グラスアイオノマーセメント修復

正解はbです。



56 53歳の女性。上顎左側中切歯の自発痛を主訴として来院した。前日に転倒して打撲したという。Ⅰは温度診に反応し、動揺度が1度であった。初診時の口腔内写真(別冊No. 17A)とエックス線写真(別冊No. 17B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- a 間接覆髄法
- b IPC 法
- c 直接覆髄法
- d 生活断髄法
- e 麻酔抜髄法



57 45歳の男性。下顎左側第一大臼歯の咬合痛を主訴として来院した。「6」は10年前に治療を受け、以後順調に経過していたが、1か月前から歯肉腫脹が発現したという。「6」の動揺度は1度で、頬側に深さ10 mmの歯周ポケットが限局性に認められた。初診時の口腔内写真(別冊No. 18A)とエックス線写真(別冊No. 18B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- a 感染根管治療
- b 歯根分離法
- c 歯根尖切除法
- d 歯周ポケット搔爬術
- e ヘミセクション



58 32歳の女性。下顎左側第一大臼歯の咬合時の違和感を主訴として来院した。「6」は電気診に反応せず、動揺度は1度で、歯周ポケットの深さはすべて2 mm以下であった。初診時の口腔内写真(別冊No. 19A)とエックス線写真(別冊No. 19B)とを別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 感染根管治療
- b 歯根分離法
- c ファルカプラスティ
- d ヘミセクション
- e フラップ手術



58 32歳の女性。下顎左側第一大臼歯の咬合時の違和感を主訴として来院した。「6」は電気診に反応せず、動揺度は1度で、歯周ポケットの深さはすべて2 mm以下であった。初診時の口腔内写真(別冊No. 19A)とエックス線写真(別冊No. 19B)とを別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 感染根管治療
- b 歯根分離法
- c ファルカプラスティ
- d ヘミセクション
- e フラップ手術



60 27歳の女性。上顎切歯の破折を主訴として来院した。1週前に転倒して1,2を打撲し、一過性の冷水痛を感じるようになったという。自発痛や動揺はなく、打診および電気診に正常な反応を示す。初診時の口腔内写真(別冊No. 21A)とエックス線写真(別冊No. 21B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- a アマルガム修復
- b メタルインレー修復
- c グラスアイオノマーセメント修復
- d コンポジットレジン修復
- e ラミネートベニア修復



61 22歳の女性。上顎右側中切歯の審美障害を主訴として来院した。Ⅱに自発痛はなく、歯髄診断で異常は認められない。初診時の口腔内写真(別冊No. 22)を別に示す。

適切な処置はどれか。

- (1) 歯面研磨
- (2) フッ化物歯面塗布
- (3) 漂白法
- (4) コンポジットレジン修復
- (5) コンポジットレジンインレー修復

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)



62 17歳の男子。歯の審美障害を主訴として来院した。数年前から気になっていたという。歯髄診断で異常は認められない。初診時の口腔内写真(別冊No. 23A、B)を別に示す。

適切な処置はどれか。

- a 歯面研磨
- b フッ化物歯面塗布
- c ウォーキングブリーチ法
- d コンポジットレジン修復
- e ラミネートベニア修復



63 13歳の男子。上顎右側中切歯の咬合痛を主訴として来院した。2日前に1を打撲したという。自発痛および歯肉の腫脹や圧痛はない。1は電気診に反応し、動揺度が2度で打診痛が認められる。初診時のエックス線写真(別冊No. 24)を別に示す。

適切な処置はどれか。

- a 固 定
- b 生活断髄
- c 抜 髄
- d 歯の再植
- e 抜 歯



64 40歳の男性。下顎前歯部唇側歯肉の退縮を主訴として来院した。I唇側の歯周ポケットの深さは、近心4 mm、中央3 mm、遠心2 mmである。初診時の口腔内写真(別冊No. 25)を別に示す。

歯周基本治療後に必要な処置はどれか。2つ選べ。

- a 小帯切除術
- b 新付着術
- c 歯肉整形術
- d 歯肉弁側方移動術
- e 歯肉切除術



65 20歳の女性。上下顎前歯部歯肉の腫脹を主訴として来院した。2年前からブラッシング時の出血と歯肉腫脹とを認め、2か月前から程度が著しくなったという。動揺度は $\overline{21}$ が1度、 $\overline{21|12}$ が2度である。初診時の口腔内写真(別冊No. 26A)とエックス線写真(別冊No. 26B、C)とを別に示す。

口腔清掃指導の次に行うべき処置はどれか。

- (1) 咬合調整
- (2) ルートプレーニング
- (3) 歯の小移動
- (4) 小帯切除術
- (5) 歯肉切除術

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)



66 29歳の女性。前歯部の審美障害を主訴として来院した。5年前から $\frac{2}{2}-\frac{1}{1}$ 部の歯肉が時々腫脹し、最近では歯間離開が著しくなってきたという。歯周ポケットの深さは $\frac{2}{2}-\frac{1}{1}$ で3～4mm、動揺度は $\frac{1}{1}$ で1度である。初診時の口腔内写真(別冊No. 27A)とエックス線写真(別冊No. 27B、C)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- (1) ルートプレーニング
- (2) 矯正治療
- (3) 固定
- (4) 歯肉切除術
- (5) 咬合調整

a (1), (2), (3)

b (1), (2), (5)

c (1), (4), (5)

d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)



67 60歳の男性。上下顎前歯部歯肉の腫脹を主訴として来院した。2か月前からブラッシング時の出血および歯肉腫脹を自覚し、最近その程度が著しくなったという。6か月前から降圧薬を服用している。 $\frac{3}{3}+\frac{3}{3}$ の歯周ポケットの深さは平均5mm以上である。初診時の口腔内写真(別冊No. 28A、B、C)を別に示す。

考えられる疾患はどれか。2つ選べ。

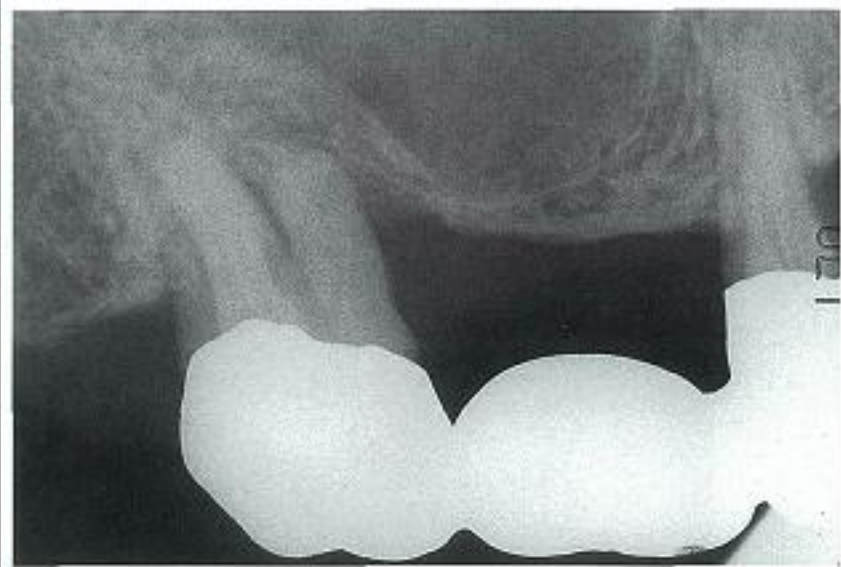
- a 歯肉線維腫症
- b 慢性剥離性歯肉炎
- c 成人性歯周炎
- d 急速進行性歯周炎
- e 歯肉増殖症



68 55歳の男性。上顎右側第一大臼歯の自発痛を主訴として来院した。10年前に⑥⑤④ブリッジを装着したが、⑥に6か月前から咬合痛を自覚し、1週間前から拍動性の疼痛が著しくなったという。打診および温熱刺激に対して強く反応する。頬側の歯周ポケットの深さは、近心7mm、中央9mm、遠心4mmである。初診時の口腔内写真(別冊No. 29A)とエックス線写真(別冊No. 29B)とを別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 象牙質知覚過敏処置
- b 歯周ポケット搔爬
- c 麻酔抜髄
- d 感染根管治療
- e 抜 歯



69 35歳の女性。上顎左側側切歯の疼痛を主訴として来院した。[2]は20年前にレジ^{レジ}ン修復処置を受け、1か月前から咬合痛を自覚するようになったという。電気診に反応せず、強い打診痛がある。初診時のエックス線写真(別冊No. 30)を別に示す。

適切な処置はどれか。

- a IPC 法
- b 失活断髄法
- c 麻酔抜髄法
- d 失活抜髄法
- e 感染根管治療



70 56歳の女性。下顎左側第二小臼歯の動揺を主訴として来院した。動揺度は2度で、舌側中央の歯周ポケットの深さは4 mmである。咬頭嵌合位での咬合接触状態を示す写真(別冊No. 31A)とエックス線写真(別冊No. 31B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- (1) 球面形成
- (2) 固 定
- (3) フラップ手術
- (4) 広い咬合接触面の形成
- (5) JankelsonⅢ級の咬合調整

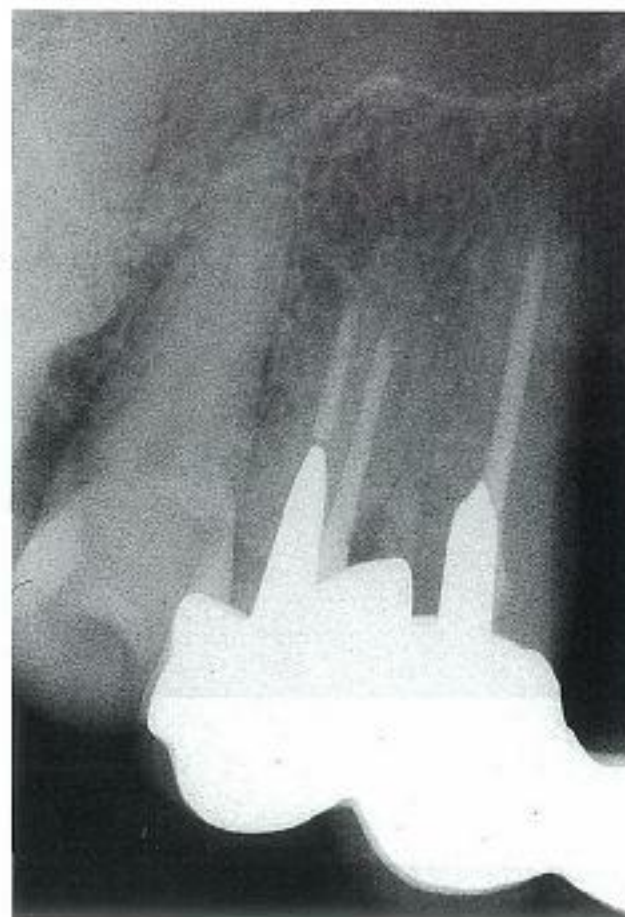
a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)



71 65歳の女性。上顎右側犬歯部歯肉の腫脹と違和感とを主訴として来院した。3]の近心歯周ポケットの深さは8 mmである。初診時の口腔内写真(別冊No. 32A)とエックス線写真(別冊No. 32B)とを別に示す。

歯周基本治療後に行う適切な処置はどれか。

- a 歯肉切除術
- b 新付着術
- c フラップ手術
- d 遊離歯肉移植術
- e 歯槽骨切除術



72 21歳の女性。前歯部歯肉の痛みを主訴として来院した。1週間前から全身倦怠感があるという。歯肉には接触痛がみられる。エックス線診査では骨吸収は認められない。初診時の口腔内写真(別冊No. 33)を別に示す。

疑われる疾患はどれか。

- a 歯肉増殖症
- b 若年性歯周炎
- c 慢性剥離性歯肉炎
- d 扁平苔癬
- e 急性壊死性潰瘍性歯肉炎



73 12歳の男児。歯肉からの出血を主訴として来院した。薬物の服用はないという。初診時の口腔内写真(別冊No. 34A、B)を別に示す。

下顎歯肉にみられる所見はどれか。

- (1) 堤状隆起
- (2) ステップリング
- (3) 歯肉の発赤
- (4) 歯肉増殖
- (5) 口呼吸線

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)



74 23歳の女性。歯肉退縮を主訴として来院した。歯肉の炎症や歯周ポケットは認められない。初診時の口腔内写真(別冊No. 35)を別に示す。

適切な処置はどれか。

- (1) 歯肉弁側方移動術
- (2) 歯肉弁根尖側移動術
- (3) 新付着術
- (4) 歯肉結合組織移植術
- (5) 遊離歯肉移植術

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

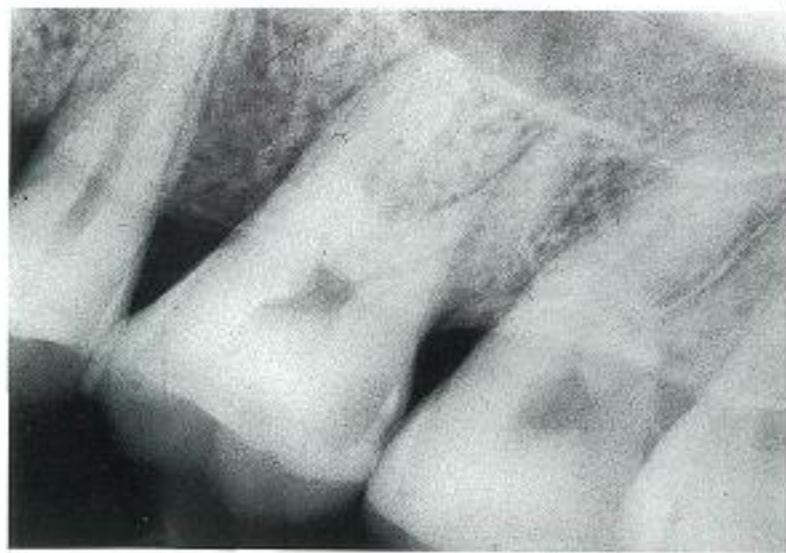


75 51歳の男性。上顎左側第一大臼歯の咬合痛を主訴として来院した。歯周治療の再評価時に[6]の根分岐部病変が認められた。[6]は電気診に反応し、口蓋側の歯周ポケットの深さは近心8 mm、遠心7 mmであり、中央は10 mmで根尖に到達している。再評価時の口腔内写真(別冊No. 36A)とエックス線写真(別冊No. 36B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- (1) 麻酔抜髄法
- (2) GTR 法
- (3) ファルカプラスティ
- (4) 骨移植術
- (5) トライセクション

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)



1 無歯顎者の顔貌の特徴はどれか。

- (1) 浅い鼻唇溝
- (2) 鼻下点－オトガイ間距離の減少
- (3) 薄い赤唇部
- (4) 口角の挙上
- (5) 明瞭な人中

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

2 下顎位について正しいのはどれか。

- (1) 欠損歯列には下顎安静位は存在しない。
- (2) 下顎安静位は終末蝶番運動路上にある。
- (3) 咬頭嵌合位は咀嚼運動の終末位と一致する。
- (4) 偏心位では上下顎歯列は接触する。
- (5) 最大開口位では下顎頭は関節円板の後方に位置する。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

- 3 レストで誤っているのはどれか。
- a 義歯に加わる咬合力を支台歯に伝達する。
 - b 義歯の沈下を防止する。
 - c 義歯の着脱方向を規制する。
 - d クラスプを定位置に保つ。
 - e 義歯の動きを抑制する。

4 リンガルバーで正しいのはどれか。

- (1) 舌小帯が高位の場合に適用される。
- (2) 間接維持作用がある。
- (3) 上縁は残存歯歯頸部から 1 mm 離す。
- (4) 断面形態は半洋梨状が良い。
- (5) 上縁は粘膜と接する。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

5 摂食機能に関する組合せで誤っているのはどれか。

- a 先行期 ——— 食物の認知
- b 準備期 ——— 食物の咀嚼
- c 口腔期 ——— 食塊の形成・移送
- d 咽頭期 ——— 随意運動
- e 食道期 ——— 蠕動運動

6 レジン前装鑄造冠の前装レジン破折の原因はどれか。

- (1) リテンションビーズの使用
- (2) 金属接着性プライマーの使用
- (3) レジンによる切縁被覆
- (4) 光照射量の不足
- (5) オペークレジンの使用

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

- 7 全部被覆冠と比較した場合の一部被覆冠の特徴はどれか。
- a 二次齲蝕になりにくい。
 - b 維持力が大きい。
 - c 歯髄への障害が少ない。
 - d 歯質削除量が多い。
 - e 適応症が広い。

8 前歯部ブリッジのポンティック基底面形態で、審美性と自浄性とを兼ね備えているのはどれか。

- a 鞍状型
- b 偏側型
- c リッジラップ型
- d 船底型
- e 自浄型

9 部分床義歯の支持能を高めるのはどれか。

- (1) 支台歯の加圧印象を行う。
- (2) 顎堤粘膜の機能印象を行う。
- (3) 支台歯間線数を増やす。
- (4) 人工歯を歯槽頂に排列する。
- (5) 支台歯間線を直線的にする。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

10 人工歯の選択で正しい組合せはどれか。

- (1) 前歯の大きさ ————— Willis 法
- (2) 臼歯の大きさ ————— レトロモラーパッド
- (3) 前歯の形態 ————— SPA 要素
- (4) 臼歯の形態 ————— 顎堤の吸収程度
- (5) 前歯の色調 ————— モールドガイド

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

11 作業模型に適合していたフレームワークが口腔内で適合しなかった。

考えられる原因はどれか。

- (1) 不適切な印象採得
- (2) 不正確な耐火模型
- (3) 鑄造収縮の補償不足
- (4) 不正確なサベイング
- (5) 支台歯の移動

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

12 遊離端義歯で支台歯の負担を軽減する方法はどれか。

(1) リンガライズドオクルージョンにする。

(2) 人工歯数を増やす。

(3) 遠心レストを用いる。

(4) 支台歯間線を多角化する。

(5) オルタードキャスト法を用いる。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

13 上顎全部床義歯の床後縁設定に関係しないのはどれか。

- a ハミューラーノッチ
- b 口蓋帆張筋
- c モダイオラス
- d 軟口蓋
- e 口蓋小窩

14 ブリッジの仮着で確認できるのはどれか。

- (1) 咬合接触の状態
- (2) 合着用セメントの種類
- (3) ろう付け部の強度
- (4) 支台歯との適合
- (5) 食片圧入の有無

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

15 失活歯の上顎犬歯に適したクラウンはどれか。

- a ラミネートベニアクラウン
- b ピンレッジ
- c 3/4 クラウン
- d レジン前装鑄造冠
- e プロキシマルハーフクラウン

16 固定性ブリッジで正しいのはどれか。

- (1) 支台歯数は多い程よい。
- (2) 支台歯の平行性が必要である。
- (3) 咬合力を歯根膜で支えている。
- (4) 部分床義歯より違和感がある。
- (5) 調整や修理が容易である。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

17 前歯部ブリッジの支台装置に適しているのはどれか。

(1) ポーセレンジャケットクラウン

(2) レジン前装鑄造冠

(3) 3/4 クラウン

(4) 全部鑄造冠

(5) プロキシマルハーフクラウン

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

18 ク라운の作業模型で正しいのはどれか。

- a 歯型は支台装置を再現したものである。
- b 歯型固着式模型では隣接面の操作が容易である。
- c 分割復位式模型では分割後歯型を再構成できる。
- d 副歯型式模型では歯型の位置が狂いやすい。
- e 歯型可撤式模型では歯型辺縁のトリミングが必要ない。

19 ブリッジと比較した場合の部分床義歯の特徴はどれか。

- (1) 違和感が少ない。
- (2) 清掃が容易である。
- (3) 粘膜負担である。
- (4) 多数歯欠損に適用できる。
- (5) 咀嚼能力に優れる。

a (1)、(2)、(3)；

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

20 全部床義歯用個人トレーの製作で配慮すべき事項はどれか。

- (1) 床下粘膜の被圧変位量
- (2) ハミューラーノッチの位置
- (3) 耳下腺乳頭の位置
- (4) ドンダース空隙の大きさ
- (5) 舌小帯の位置

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

21 全部床義歯装着者の口腔清掃不良による症状はどれか。

(1) 床下粘膜の炎症

(2) 口角炎

(3) 口 臭

(4) フラピーガム

(5) 褥瘡性潰瘍

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

22 全部床義歯の審美性で正しいのはどれか。

- a 犬歯の色調は側切歯より明るくする。
- b 顔面と義歯との正中を一致させる。
- c 上顎中切歯切縁は微笑時の上唇下縁に一致させる。
- d 上顎前歯は歯槽頂線上に排列する。
- e 女性では上顎前歯切縁を直線的に排列する。

23 無歯顎者の咬合採得で最初に行うのはどれか。

- a 上下的顎間関係の決定
- b 水平的顎間関係の決定
- c 仮想咬合平面の決定
- d 転覆試験
- e 標示線の記入

24 支台築造の目的はどれか。

- (1) 残存歯質の補強
- (2) 咬合関係の改善
- (3) 審美性の改善
- (4) 適合性の向上
- (5) 保持形態の付与

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

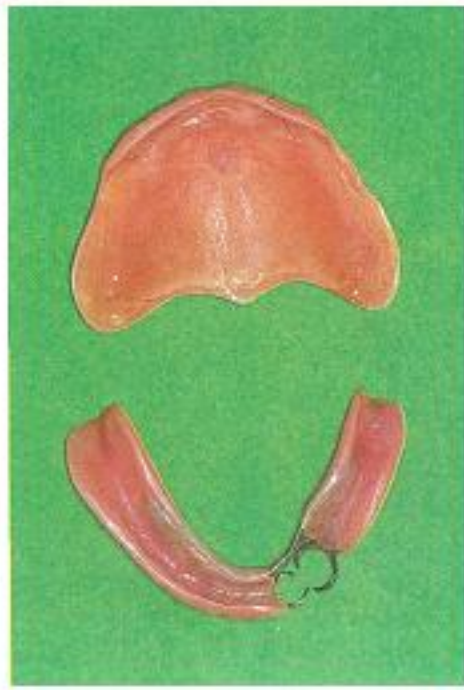
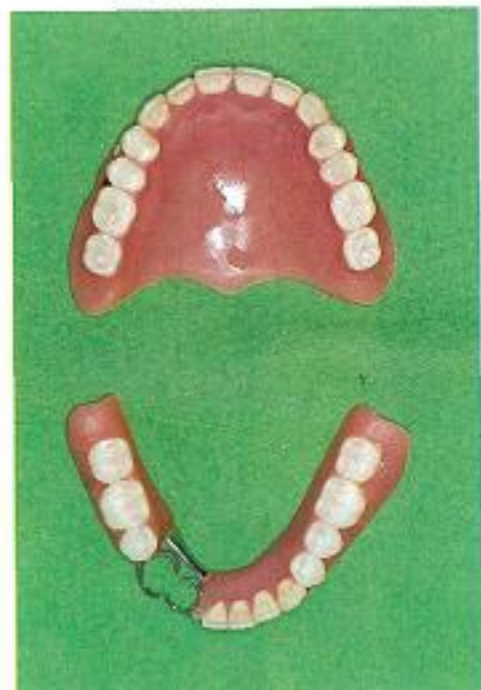
d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

25 78歳の男性。咀嚼時の下顎義歯による疼痛を主訴として来院した。義歯は3年前に装着したが、2か月前から咀嚼時の痛みが生じてきたという。初診時の口腔内写真(別冊No. 1A、B)と義歯の写真(別冊No. 1C、D)とを別に示す。

行うべき処置はどれか。2つ選べ。

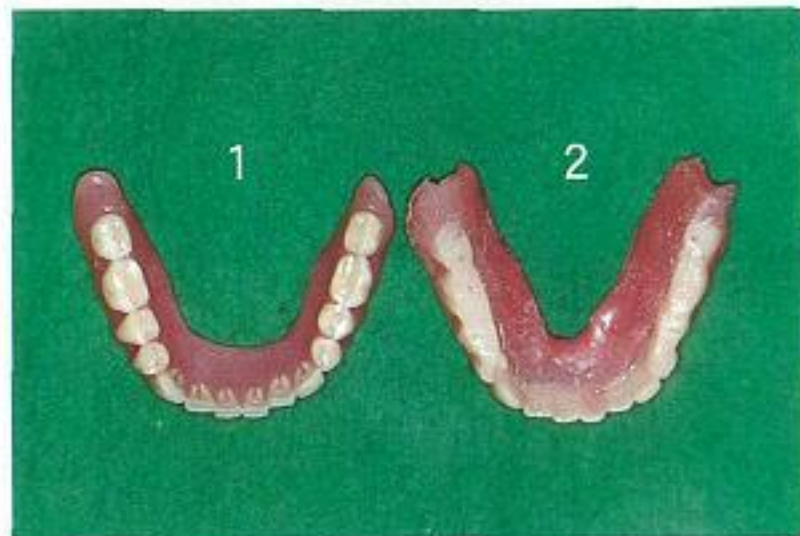
- a 臼歯人工歯の形態修正
- b 下顎最遠心の人工歯削除
- c 支台歯の歯冠形態修正
- d 下顎義歯のリライニング
- e 支台装置へのレスト付与



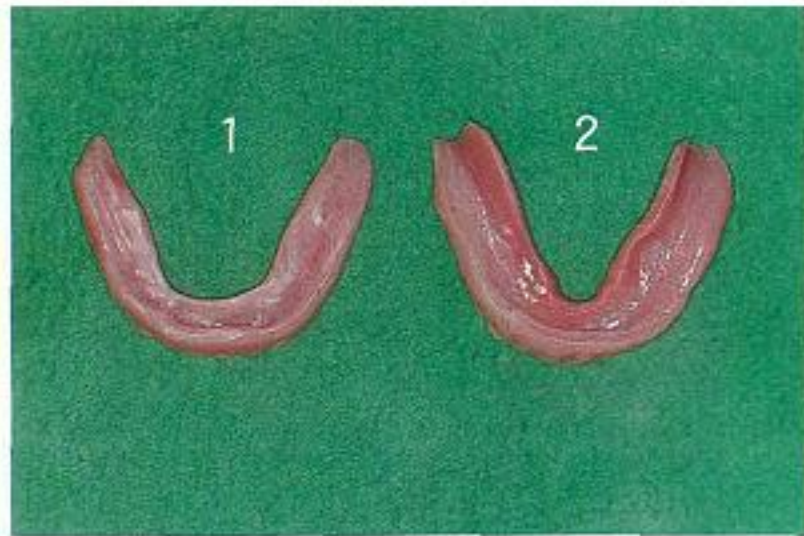
26 71歳の女性。下顎義歯床下粘膜の疼痛を主訴として来院した。義歯使用時の痛みが強いので、食事では使用していなかったという。治療用義歯を装着したところ、咀嚼中の痛みは消失した。初診時の口腔内写真(別冊No. 2A)と2種類の義歯の写真(別冊No. 2B、C)とを別に示す。

疼痛の原因として考えられるのはどれか。

- a 第二大臼歯の排列
- b 臼歯の頬舌幅径
- c 義歯床縁の位置
- d 前歯の排列位置
- e 舌房の広さ



1：使用中の義歯 2：治療用の義歯



1：使用中の義歯 2：治療用の義歯

27 73歳の男性。審美障害を主訴として来院した。13年前に上下顎の総義歯を装着し、現在、摂食に困難は感じないという。初診時における咬合時の顔面写真(別冊No. 3A、B)を別に示す。

診査項目で必要でないのはどれか。

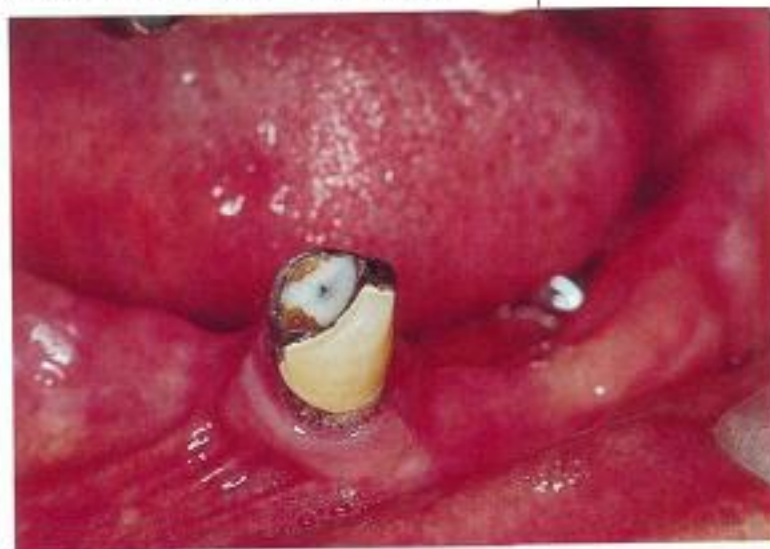
- a 安静空隙量
- b 顎路傾斜角
- c オーバーバイト量
- d 前歯部の排列位置
- e 床の辺縁形態



70歳の男性。義歯使用時の疼痛を主訴として来院した。12年前に上下顎部分床義歯を装着したが、2か月前から咀嚼時に下顎犬歯部の疼痛を感じるようになったという。初診時の口腔内写真(別冊No. 4A、B)と義歯の写真(別冊No. 4C)とを別に示す。

28 考えられる原因はどれか。2つ選べ。

- a 床の適合不良
- b 過長な床縁形態
- c 義歯の沈下
- d 義歯後部の浮き上がり
- e 支台装置の形態不良



70歳の男性。義歯使用時の疼痛を主訴として来院した。12年前に上下顎部分床義歯を装着したが、2か月前から咀嚼時に下顎犬歯部の疼痛を感じるようになったという。初診時の口腔内写真(別冊No. 4A、B)と義歯の写真(別冊No. 4C)とを別に示す。

29 この症例で義歯を再製するにあたり、3のクラウンを再製することとした。クラウンの設計で誤っているのはどれか。

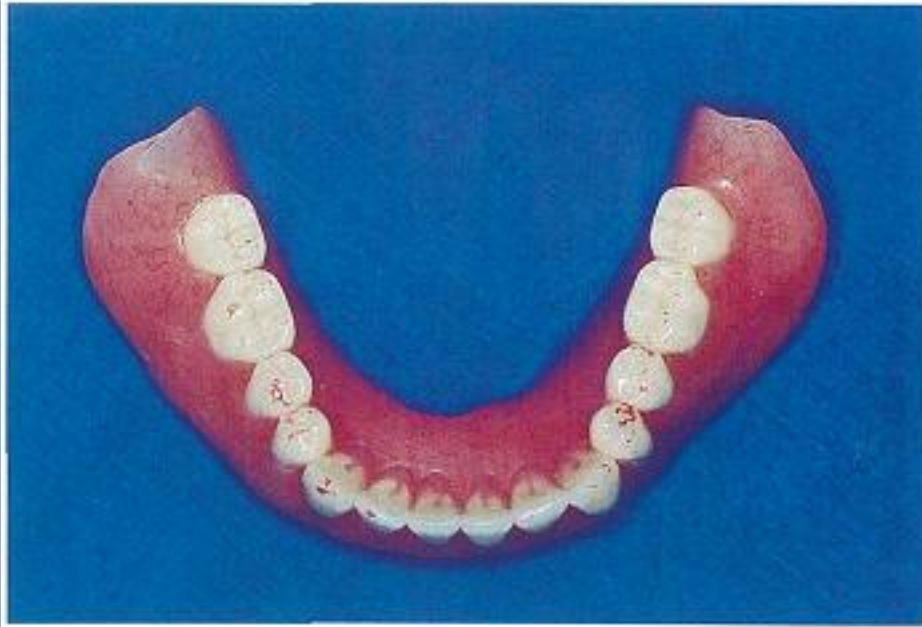
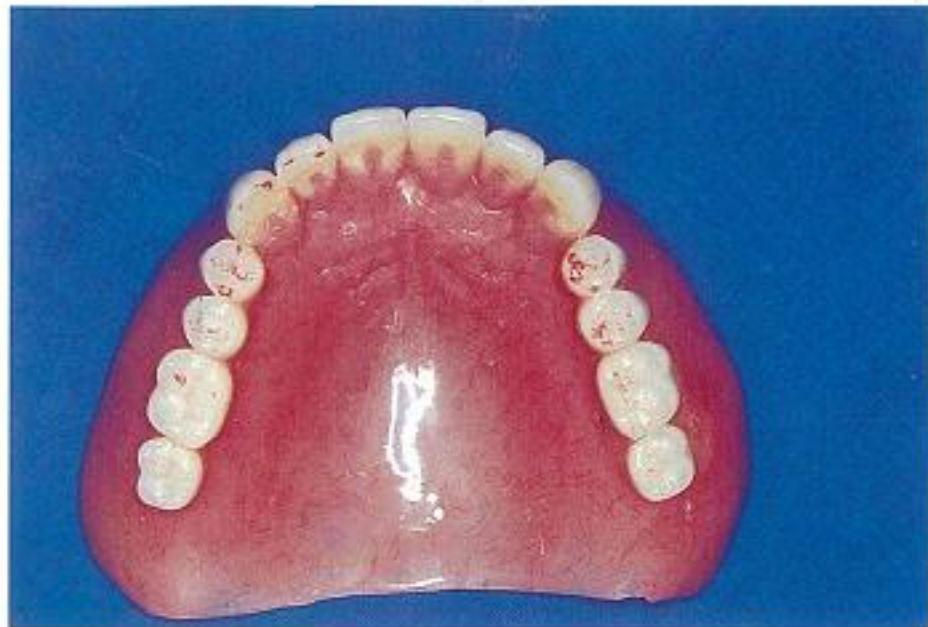
- a 近心にレストシート
- b 遠心にレストシート
- c 歯頸線に沿った豊隆
- d 近心隣接面にガイドプレーン
- e 遠心隣接面にガイドプレーン



30 75歳の男性。義歯の製作を希望して来院した。有咬頭人工歯を使用して上下顎全部床義歯を製作した。最初の咬合調整にあたり、咬合紙による閉口時の記録を行った。その時の写真(別冊No. 5A、B)を別に示す。

咬合紙の印記部位で削合するのはどれか。2つ選べ。

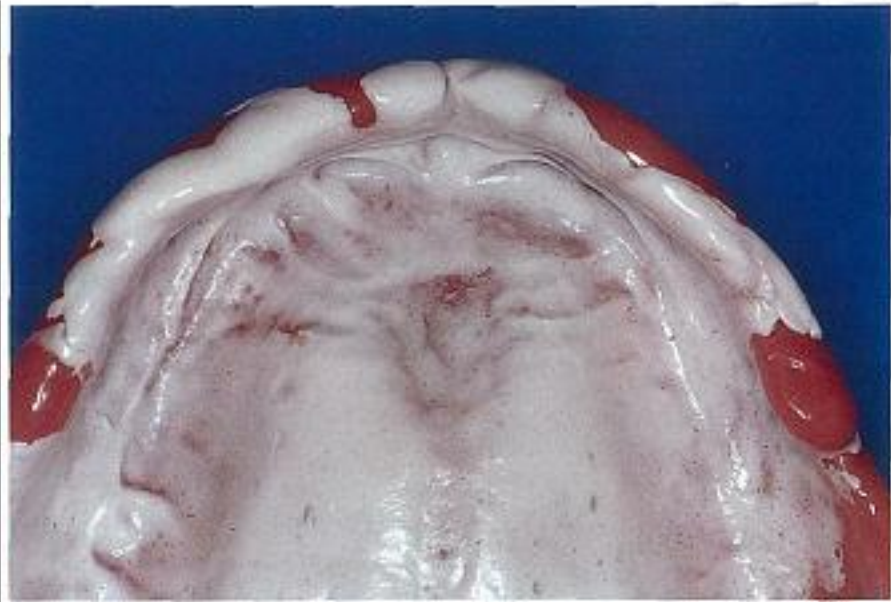
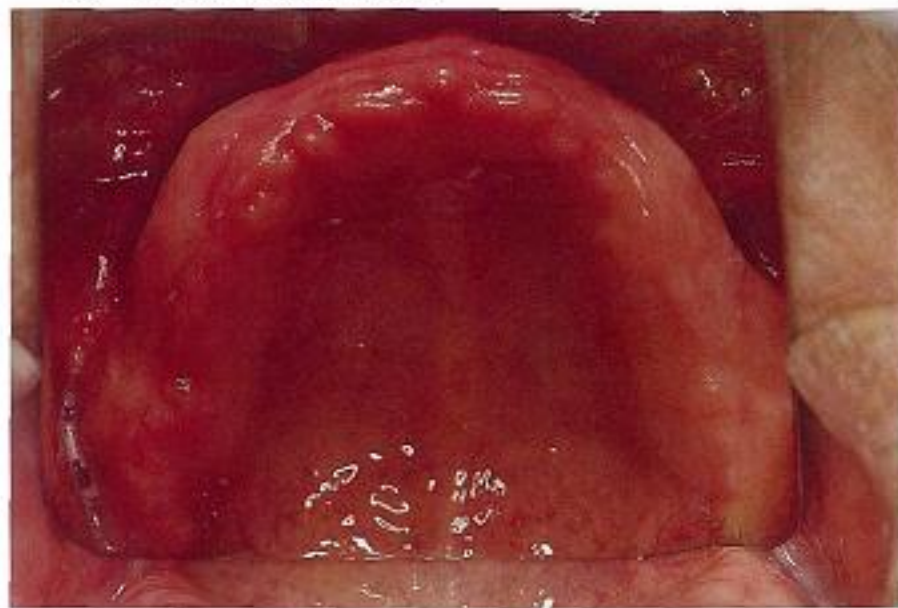
- a BULLの法則に合う部位
- b 4の遠心辺縁隆線
- c 4の舌側咬頭頂
- d 5の頬側咬頭頂
- e 4の遠心辺縁隆線



- 31 77歳の女性。上顎全部床義歯を装着したところ、2週後の来院時に咀嚼時の疼痛を訴えた。その時の口腔内写真(別冊No. 6A)と義歯適合試験の写真(別冊No. 6B)とを別に示す。

疼痛の原因はどれか。2つ選べ。

- a 個人トレーの形態不良
- b 印象採得時の加圧不足
- c 咬合採得の不正
- d 口蓋正中部のリリーフ不足
- e 不均衡な咬合接触



32 64歳の女性。上顎前歯部の補綴処置を希望して来院した。両側第二小臼歯に咬合面レストを持つ義歯を装着した。装着時の口腔内写真(別冊No. 7A、B、C)と義歯の写真(別冊No. 7D)とを別に示す。

義歯の回転脱落到抵抗する維持装置はどれか。2つ選べ

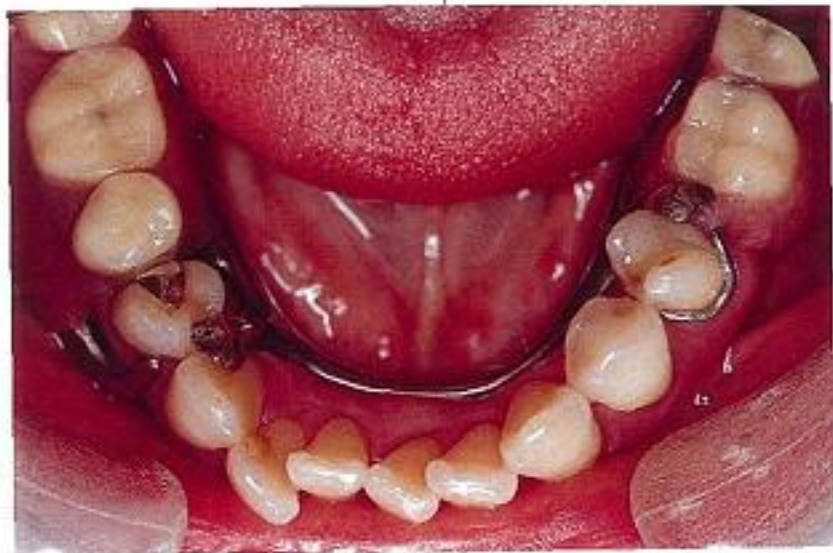
- a 7|7の頬側腕鉤尖部
- b 5|5の頬側腕鉤尖部
- c 5|5の咬合面レスト
- d 7|7のレスト
- e 7|7の舌側腕鉤尖部



33 56歳の女性。下顎部分床義歯の開口時脱離を主訴として来院した。義歯は4年前に装着したという。初診時の口腔内写真(別冊No. 8A、B、C)を別に示す。

義歯を新製するにあたり、 $\overline{4|5}$ の支台装置の設計で適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 近心レスト
- b 遠心レスト
- c ファーゾーンに鉤尖
- d ニアゾーンに鉤尖
- e 近心隣接面にガイドプレーン



34 23歳の女性。開口時の顎運動障害を主訴として来院した。1か月前から開口時に下顎偏位が生じたが自発痛はないという。初診時の閉口時の写真(別冊No. 9A)と開口時の写真(別冊No. 9B、C)とを別に示す。

下顎偏位の状況から考えられる障害部位はどれか。

- a 右側顎関節
- b 左側顎関節
- c 右側開口筋
- d 左側開口筋
- e 右側閉口筋



35 51歳の女性。前歯部の審美障害と発音障害とを主訴として来院した。初診時の口腔内写真(別冊No. 10)を別に示す。

補綴処置に際して行うべき咬合診査はどれか。2つ選べ。

- a 咬頭嵌合位
- b 下顎後退位
- c 右側方滑走運動
- d 左側方滑走運動
- e 安静空隙量



36 38歳の女性。上顎前歯部ブリッジの審美障害を主訴として来院した。来院時の口腔内写真(別冊No. 11A、B)を別に示す。

ボンテックを修正する処置で適切なのはどれか。

- (1) 歯頸部位置の修正
- (2) 有床ボンテックの適用
- (3) 切縁部の短縮
- (4) 唇面形態の修正
- (5) 色調の修正

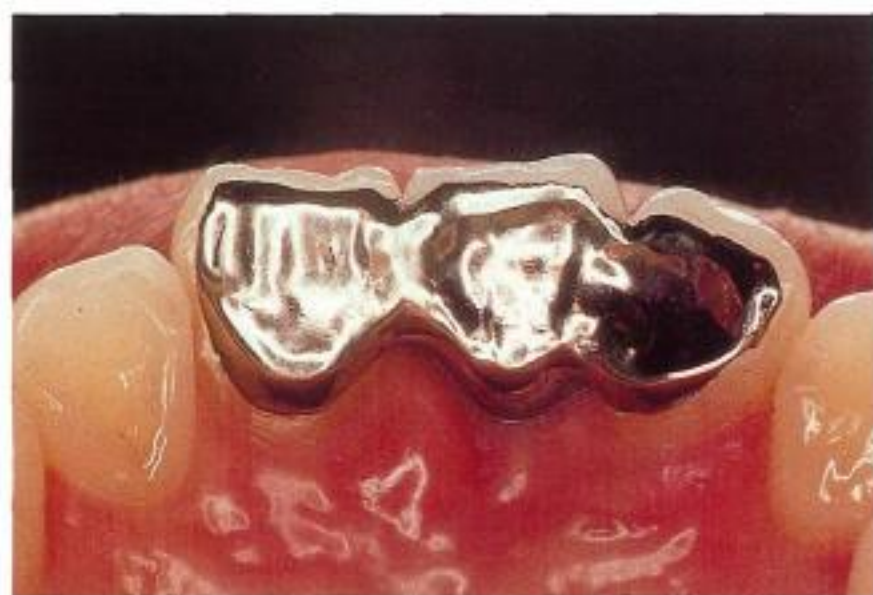
a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)



37 59歳の女性。前歯部のクラウン脱落を主訴として来院した。支台歯には齲蝕、破折および歯周炎などの異常は認められない。脱落したクラウンを試適したところ、咬合状態、適合性および審美性も良好であった。来院時の口腔内写真(別冊No. 12A)と脱落したクラウンの写真(別冊No. 12B)とを別に示す。

考えられる処置はどれか。2つ選べ。

- a リン酸亜鉛セメントによる再装着
- b 接着性レジンセメントによる再装着
- c 切縁を0.5 mm 短くして再装着
- d 回転防止を形成して再装着
- e 回転防止を形成して再製作



38 63歳の男性。下顎小白歯前装冠の脱落を主訴として来院した。来院時のエックス線写真(別冊No. 13A)と脱落した前装冠の写真(別冊No. 13B)とを別に示す。

脱落の原因で考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a ポスト長の不足
- b ポスト孔の近心への偏在
- c ポスト太さの不足
- d ポストの鑄造欠陥
- e 合金選択の誤り



39 60歳の男性。上顎前歯ブリッジの動揺を主訴として来院した。診査によって犬歯部の片側離脱が認められた。ブリッジ撤去時の口腔内写真(別冊No. 14)を別に示す。

再製にあたり改善すべき点はどれか。2つ選べ。

- a 支台歯数の増加
- b 1の支台歯形態
- c 3の支台築造
- d 顎堤の形態
- e ポンティック基底面



40 60歳の男性。口腔内診査を希望して来院した。臼歯部歯肉に着色を認めた。初診時の口腔内写真(別冊No. 15)を別に示す。

着色の原因で考えられるのはどれか。

- a 冠の適合不良による慢性歯肉炎
- b 歯根部に生じた二次齲蝕
- c メタルコア金属の溶出
- d レジンセメントの溶出
- e 根管貼薬剤の溶出



41 40歳の男性。1年前に装着した陶材ジャケット冠の破損を主訴として来院した。装着前後における口腔内写真(別冊No. 16A、B)、冠の写真(別冊No. 16C)および来院時の口腔内写真(別冊No. 16D)を別に示す。

冠破損の原因はどれか。2つ選べ。

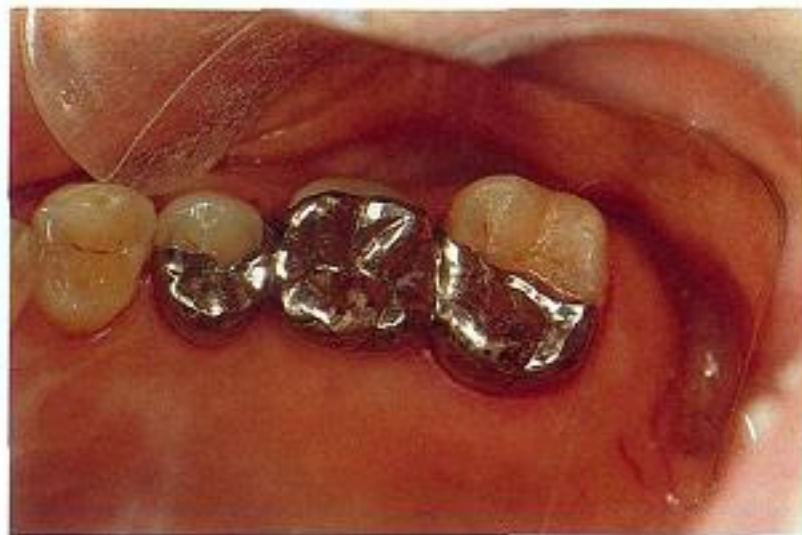
- a 支台歯辺縁形態の不良
- b コンポジットレジンでの支台築造
- c 接着性レジンセメントでの装着
- d 隣接接触点の形態不良
- e 咬合面部の陶材厚さ不足



42 63歳の女性。右側臼歯部の咀嚼障害を主訴として来院した。1か月前から噛みにくくなったという。7の一部分被覆冠が脱離していたため、ブリッジを再製作することにした。初診時の口腔内写真(別冊No. 17A、B)とブリッジ切断後の口腔内写真(別冊No. 17C)とを別に示す。

再製にあたり改善すべき点はどれか。2つ選べ。

- a 支台装置の維持力
- b 支台歯数の増加
- c ポンティック基底面の形態
- d 顎堤の形態
- e 咬合平面の修正



43 73歳の女性。義歯の破折を主訴として来院した。2日前の食事中に破折したという。初診時の口腔内写真(別冊No. 18A)、義歯の写真(別冊No. 18B)および破折部接合後の適合試験の写真(別冊No. 18C)を別に示す。

原因として考えられるのはどれか。

- (1) 床内面の適合不良
- (2) クラスプ脚の位置不良
- (3) 義歯床の厚さの不足
- (4) 義歯床の長さの不足
- (5) 人工歯排列位置の不良

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| a (1), (2), (3) | b (1), (2), (5) | c (1), (4), (5) |
| d (2), (3), (4) | e (3), (4), (5) | |



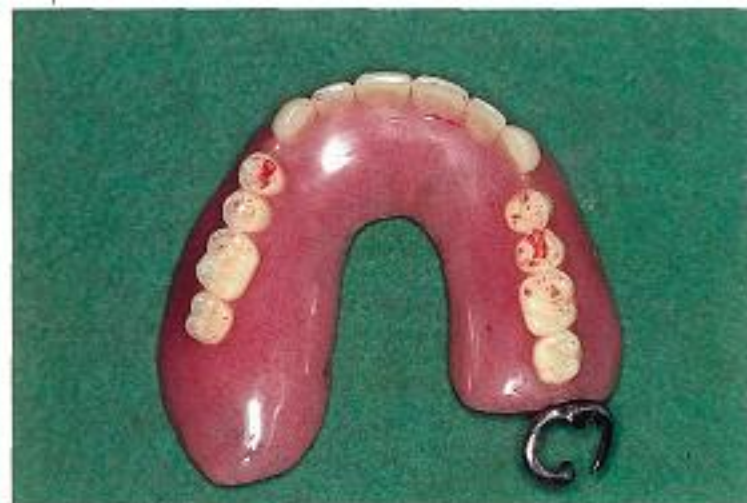
44 62歳の男性。義歯装着6か月後の検査のため来院した。最近になって義歯が緩くなったという。義歯新製時の写真(別冊No. 19A、B)と6か月後の検査時の写真(別冊No. 19C、D)とを別に示す。

行うべき処置はどれか。2つ選べ。

- a 咬合調整
- b 義歯床の拡大
- c 粘膜調整
- d リライニング
- e クラスプ調整



咬合接触状態を示す写真



咬合接触状態を示す写真



適合試験の写真



適合試験の写真

45 72歳の男性。上顎義歯の適合不良と下顎義歯の製作とを主訴として来院した。

下顎義歯は1年前に紛失したという。初診時の口腔内写真(別冊No. 20A、B)を別に示す。

咬合採得で誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 顔貌に配慮した咬合高径
- b 上顎咬合床による咬合採得
- c 上下顎咬合床による咬合採得
- d 下顎の前方偏位に対する注意
- e 下顎の後方偏位に対する注意



73歳の男性。上顎前歯部の疼痛と咀嚼障害とを主訴として来院した。上顎義歯を7年前に装着し、その後下顎臼歯を抜去したが放置していた。半年前から義歯の動揺が大きくなり、最近は咀嚼時に痛みを感じるようになったという。初診時の口腔内写真(別冊No. 21A、B)と義歯の写真(別冊No. 21C、D)とを別に示す。

46 疼痛の原因として考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 前歯床縁形態
- b 前歯排列位置
- c 床後縁位置
- d 人工歯の咬耗
- e 咬合圧分布の不均衡



咬合時の写真



義歯を顎堤から浮かせた状態の写真



73歳の男性。上顎前歯部の疼痛と咀嚼障害とを主訴として来院した。上顎義歯を7年前に装着し、その後下顎臼歯を抜去したが放置していた。半年前から義歯の動揺が大きくなり、最近は咀嚼時に痛みを感じるようになったという。初診時の口腔内写真(別冊No. 21A、B)と義歯の写真(別冊No. 21C、D)とを別に示す。

47 初診時に行うべき処置はどれか。2つ選べ。

- a 前歯床縁の削除
- b ポストダムの付与
- c 咬合調整
- d 粘膜調整とリライニング
- e 下顎義歯の製作



咬合時の写真



義歯を顎堤から浮かせた状態の写真



48 53歳の女性。ポンティック部分の刷掃指導を希望して来院した。初診時の口腔内写真(別冊No. 22)を別に示す。

清掃効果の高い用具はどれか。

- a デンタルテープ
- b デンタルフロス
- c 歯間ブラシ
- d ジェット水流洗口器
- e ラパーチップ



49 69歳の女性。上下顎全部床義歯の新製を希望して来院した。初診時の口腔内写真(別冊No. 23A)とエックス線写真(別冊No. 23B)とを別に示す。

義歯新製にあたって適切でないのはどれか。

- a 機能印象を採得する。
- b 頬舌径の小さい人工歯を用いる。
- c 咬合平面の位置を上げる。
- d 咬頭傾斜の緩い人工歯を用いる。
- e 両側性平衡咬合を与える。



50 片側性口唇口蓋裂患者の口蓋閉鎖術後に多くみられるのはどれか。

- (1) 前歯部の反対咬合
- (2) 臼歯部の交叉咬合
- (3) 上顎の空隙歯列弓
- (4) 下顎の短縮歯列弓
- (5) 上顎の狭窄歯列弓

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

51 セファロ分析で下顎の近遠心的な位置を知るための基準平面はどれか。

- (1) SN 平面
- (2) FH 平面
- (3) 咬合平面
- (4) 下顎下縁平面
- (5) 正中矢状平面

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

52 矯正治療による生体反応で誤っているのはどれか。

- a 下顎運動での切歯路の変化
- b 顎骨での骨梁走向の変化
- c 圧迫側歯根膜でのコラーゲン線維の伸展
- d 圧迫側歯根膜でのマクロファージの出現
- e 顎関節部での骨改造の出現

- 53 頭部エックス線規格写真撮影法で正しいのはどれか。
- a 焦点-被写体間距離は 1 m である。
 - b Angle によって考案された。
 - c 画像は実物の等倍大となる。
 - d 頭位は FH 平面を水平とする。
 - e 被写体は頭頂部と後頭部とで固定する。

54 矯正治療における永久歯の抜去に関して考慮するのはどれか。

(1) 口唇突出度

(2) 頭指数

(3) 開閉口運動

(4) 上下顎位置関係

(5) アーチリングスディスクレパンシー

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

55 縫合性骨形成の制御を目的とした矯正装置はどれか。

- (1) ヘッドギア
- (2) 急速拡大装置
- (3) オトガイ帽装置
- (4) アクチバトール
- (5) 舌側弧線装置

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

56 上顎第一大臼歯の遠心移動に適しているのはどれか。

- a ヘッドギア
- b 切歯斜面板
- c バイオネイター
- d 咬合挙上板
- e タングクリブ

57 10歳の反対咬合の男児。オトガイ帽装置と上顎の舌側弧線装置とで治療する計画を立てた。

セファロ分析のうち、治療によって角度が小さくなるのはどれか。

- (1) FMA
- (2) FMIA
- (3) IMPA
- (4) SNB
- (5) ANB

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

58 リーウェイスペースで正しいのはどれか。

- (1) 上下顎第一大臼歯の咬合関係の調整に関与する。
- (2) ターミナルプレーンによって異なる。
- (3) 口腔習癖の程度によって影響を受ける。
- (4) 歯と歯槽基底部との大きさの不調和をいう。
- (5) 上顎より下顎の方が大きい。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

59 急速拡大装置で正しいのはどれか。

- a 年齢に関係なく適用できる。
- b 臼歯が傾斜移動する。
- c 切歯縫合が離開する。
- d 歯槽基底部が拡大する。
- e 保定期間は必要ない。

60 上顎切歯の正中離開の原因となりうるのはどれか。

- (1) 小舌症
- (2) 上唇小帯の高位付着
- (3) 正中埋伏過剰歯
- (4) 上顎側切歯の先天欠如
- (5) 唇 裂

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

61 Angle II 級 1 類の特徴はどれか。

- (1) 上顎切歯の唇側傾斜
- (2) 下顎の近心咬合
- (3) ANB 角の過小
- (4) 凹型の顔貌
- (5) 口呼吸

- a (1)、(2)
- b (1)、(5)
- c (2)、(3)
- d (3)、(4)
- e (4)、(5)

62 弱い矯正力による歯根膜の反応動態で正しい組合せはどれか。

- (1) 破骨細胞の活性化 ————— 直接性骨吸収
- (2) 線維芽細胞の活性化 ————— 歯根膜線維の再配列
- (3) 歯根膜の圧迫 ————— 血管透過性亢進
- (4) マクロファージの出現 ————— 骨添加
- (5) 充血帯の出現 ————— 硝子様変性

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

63 学童期と比較した場合、成人期の矯正治療で特徴的なのはどれか。

- (1) 骨格性成長は期待しにくい。
- (2) 主訴は多様である。
- (3) 機能的装置が多用される。
- (4) 組織の反応性は早い。
- (5) 顎関節症状が発現しやすい。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

64 正しい組合せはどれか。

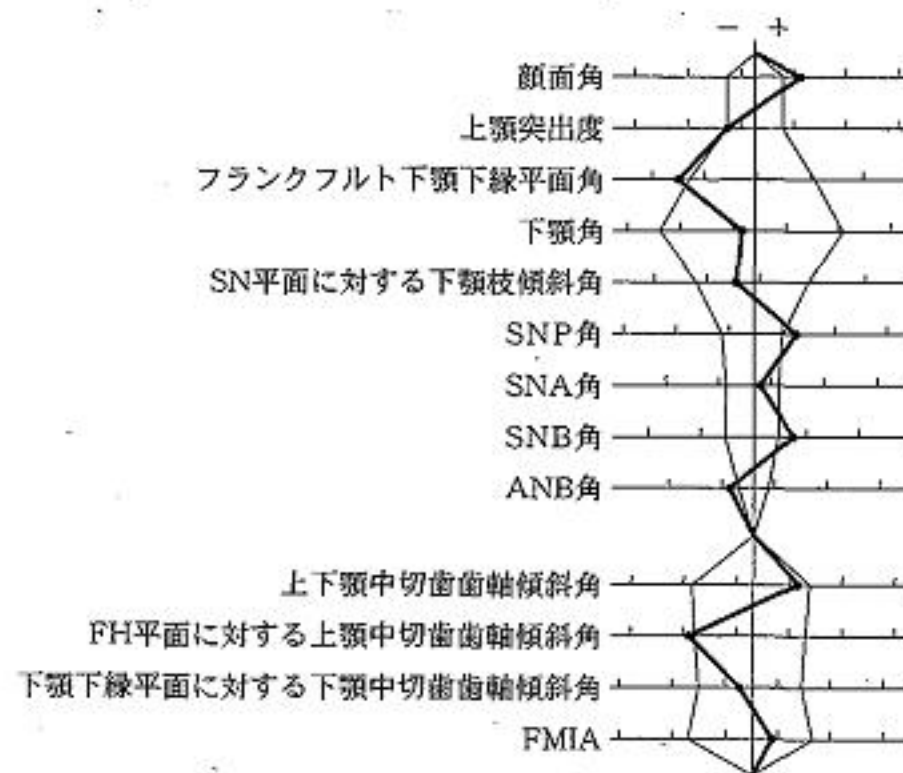
- a Steiner 分析 ————— 顔面規格写真
- b Northwestern 法 ————— 口腔模型
- c Moyers 分析 ————— 手根骨エックス線写真
- d Tweed 分析 ————— パノラマエックス線写真
- e Downs 法 ————— 頭部エックス線規格写真

65 正しい組合せはどれか。

- (1) Down 症候群 ————— 過剰歯
- (2) 鎖骨頭蓋骨異形成症 ————— 狭窄歯列弓
- (3) Crouzon 症候群 ————— 上顎発育不全
- (4) Pierre Robin 症候群 ————— 口蓋裂
- (5) Marfan 症候群 ————— 咀嚼筋活動低下

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

66 9歳の女児。受け口を主訴として来院した。初診時の顔面写真(別冊No. 24A)と口腔内写真(別冊No. 24B)とを別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。



考えられる治療方針はどれか。2つ選べ。

- a 成長が完了するまで観察する。
- b 上顎の前方牽引を行う。
- c 下顎の後下方回転を行う。
- d 上顎前歯の唇側傾斜移動を行う。
- e 下顎前歯の舌側傾斜移動を行う。



67 17歳の女子。前歯部の歯列不正を主訴として来院した。口腔内所見では上下顎第一大臼歯の咬合関係は両側とも Angle I 級で、セファロ分析では骨格性の異常はみられない。初診時の口腔内写真(別冊No. 25A、B、C)を別に示す。

矯正治療上、適切な抜歯部位はどれか。

- a $\frac{2}{4} \frac{2}{4}$
- b $\frac{3}{4} \frac{3}{4}$
- c $\frac{4}{4} \frac{4}{4}$
- d $\frac{4}{3} \frac{4}{3}$
- e $\frac{4}{4} \frac{4}{2}$



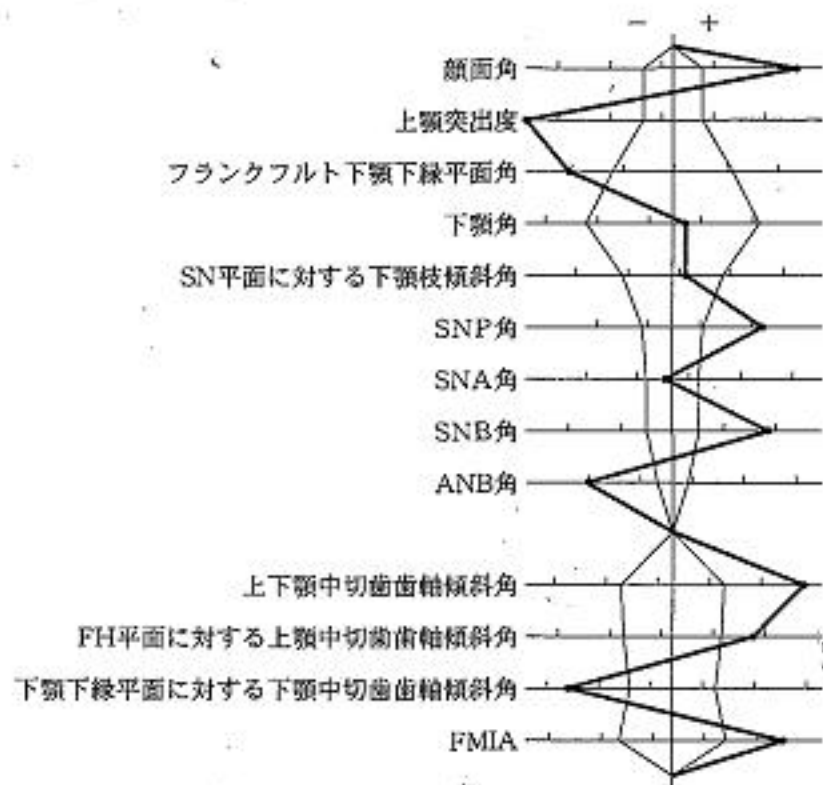
68 13歳の男児。下顎右側乳臼歯の交換の遅れを主訴として来院した。 $\overline{E}$ は対合歯との咬合が認められず、打診には金属様の消音を呈した。初診時の口腔内写真(別冊No. 26A)とエックス線写真(別冊No. 26B)とを別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 経過観察
- b $\overline{6}$ 、 $\overline{4}$ 間の離開
- c $\overline{E}$ のセプトトミー
- d $\overline{E}$ の抜歯
- e $\overline{E}$ の牽引



69 20歳の男性。下顎の突出を主訴として来院した。初診時の顔面写真(別冊No. 27 A)、口腔内写真(別冊No. 27B、C)および頭部エックス線規格写真(別冊No. 27 D)を別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。



下顎枝矢状分割術によって外科的矯正治療を行う場合、適切な術前処置はどれか。

- (1) 上顎前歯の舌側傾斜移動
- (2) 上顎第一小臼歯の抜去
- (3) 下顎前歯の舌側傾斜移動
- (4) 下顎第一小臼歯の抜去
- (5) 下顎第三大臼歯の抜去

a (1), (2), (3)

b (1), (2), (5)

c (1), (4), (5)

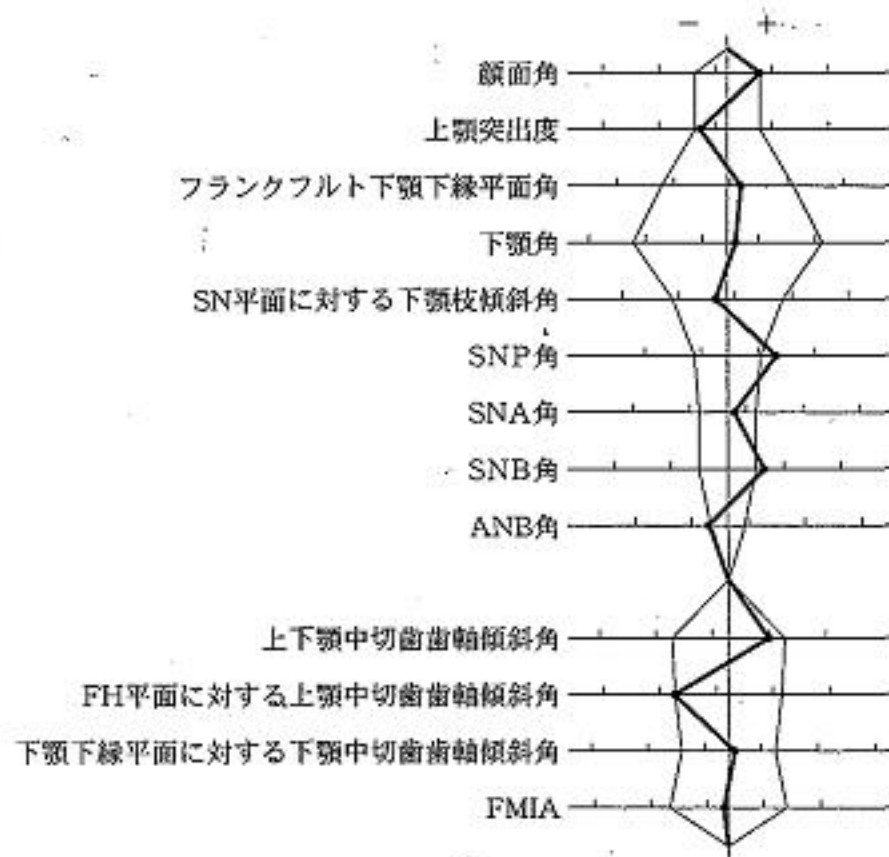
d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)



70 8歳の女児。受け口を主訴として来院した。初診時の口腔内写真(別冊No. 28

A、B)を別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。



適切な矯正装置はどれか。2つ選べ。

- a 上顎前方牽引装置
- b 急速拡大装置
- c 舌側弧線装置
- d オトガイ帽装置
- e 咬合斜面板



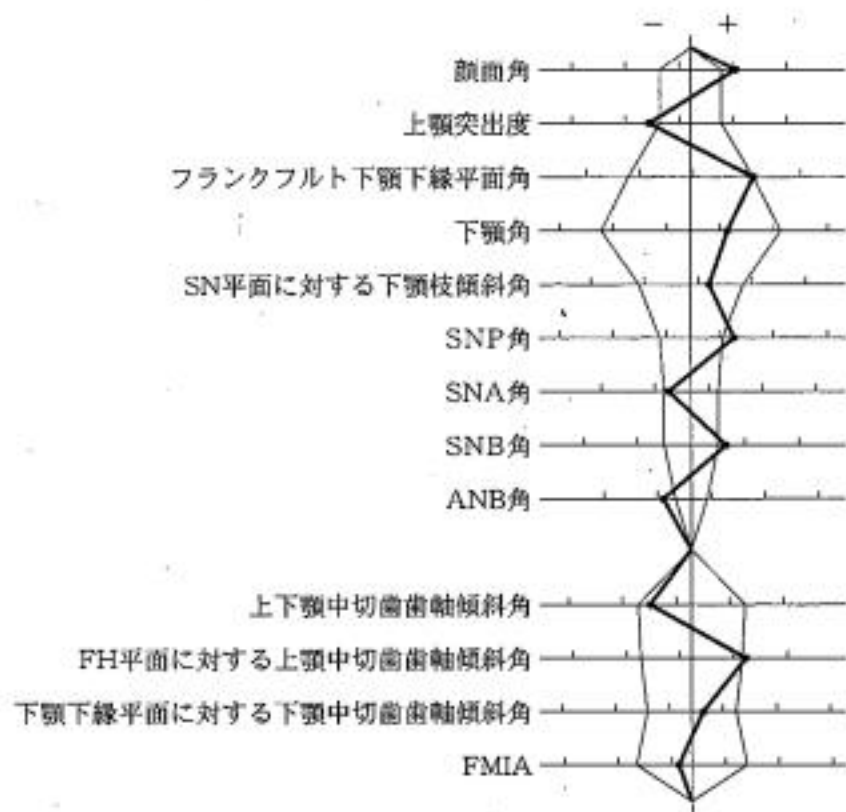
71 9歳の女兒。前歯部の不正咬合と下顎左側中切歯の動揺とを主訴として来院した。初診時の咬頭嵌合位の写真(別冊No. 29A)と早期接触位の写真(別冊No. 29B)とを別に示す。

この時期に行う処置として適切なのはどれか。

- a オトガイ帽装置の使用
- b アクチバトールの使用
- c リップバンパーの使用
- d $\overline{\text{I}}$ の削合
- e 歯肉弁移動術



72 8歳の男児。受け口を主訴として来院した。初診時の顔面写真(別冊No. 30A)と口腔内写真(別冊No. 30B、C)とを別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。



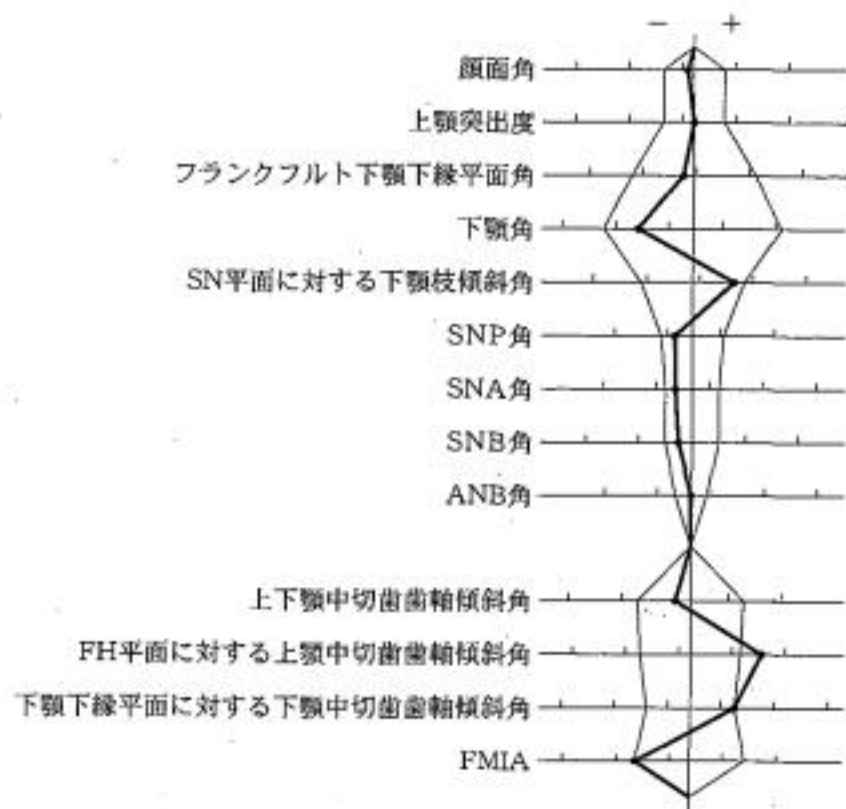
混合歯列期における治療方針と矯正装置との組合せで考えられるのはどれか。

- (1) 下顎の前方成長の抑制 ———— オトガイ帽装置
- (2) 咬合の準上 ———— 咬合斜面板
- (3) 上顎切歯の舌側傾斜移動 ———— アクチバートル
- (4) 下顎歯列の側方拡大 ———— 拡大床装置
- (5) 上顎の前方成長の促進 ———— 上顎前方牽引装置

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)



73 14歳の女子。前歯で噛めないことを主訴として来院した。顎関節に異常は認められない。初診時の口腔内写真(別冊No. 31A、B)を別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。

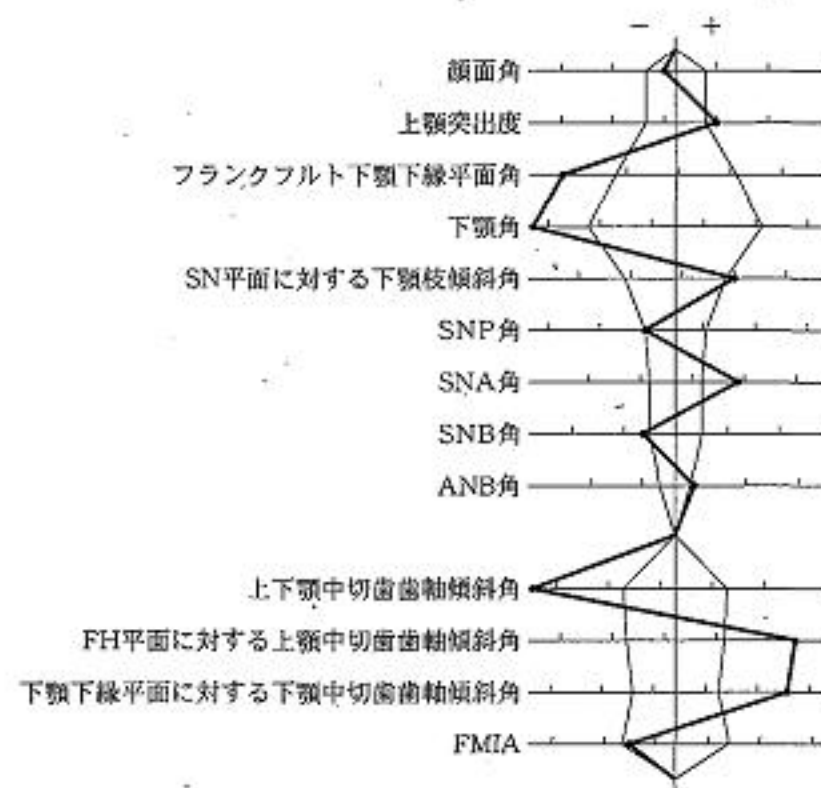


適切な矯正装置はどれか。2つ選べ。

- a 上顎前方牽引装置
- b 咬合斜面板
- c マルチブラケット装置
- d オトガイ帽装置
- e タングクリブ



74 9歳の女兒。上顎前歯の前突を主訴として来院した。初診時の顔面写真(別冊No. 32A)と口腔内写真(別冊No. 32B、C)とを別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。



適切な治療方針はどれか。

- (1) 上顎切歯の舌側傾斜移動
- (2) 下顎切歯の唇側傾斜移動
- (3) 下顎歯列の側方拡大
- (4) 上顎骨の前方成長の抑制
- (5) 下顎骨の前方成長の促進

a (1), (2), (3)

b (1), (2), (5)

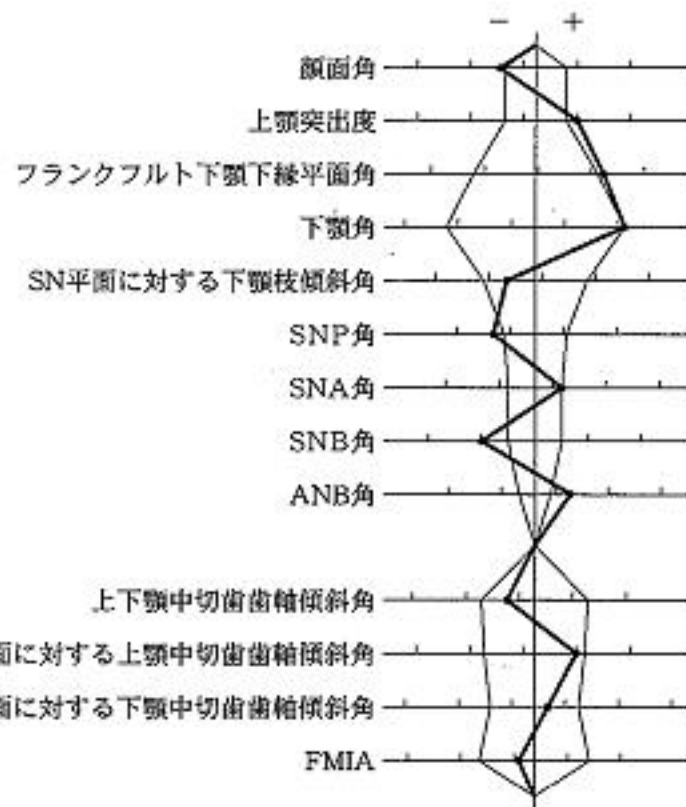
c (1), (4), (5)

d (2), (3), (4)

e (3), (4), (5)



75 7歳の女児。前歯で噛めないことを主訴として来院した。初診時の口腔内写真
(別冊No. 33A、B)を別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。



混合歯列期における治療方針と矯正装置との組合せで考えられるのはどれか。

- (1) 上顎骨の前方成長抑制 ———— サービカルヘッドギア
- (2) 上顎切歯の挺出 ————— マルチブラケット装置
- (3) 上顎骨の下方成長抑制 ———— ハイプルヘッドギア
- (4) 下顎骨の前方成長促進 ———— アクチバツール
- (5) 下顎切歯の挺出 ————— マルチブラケット装置

a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3) d (3), (4) e (4), (5)

- 1 翼突下顎隙の炎症を起こす可能性が高いのはどれか。
 - a 下顎智歯周囲炎
 - b 顎下腺管内唾石
 - c 筋突起骨折
 - d Küttner 腫瘍
 - e ガマ腫

2 組織内照射の適応はどれか。

- a 舌 癌
- b 上顎洞癌
- c 硬口蓋癌
- d 歯肉癌
- e 耳下腺癌

3 エナメル上皮腫と腺様歯原性腫瘍との鑑別に有効なエックス線所見はどれか。

- a 歯根吸収の有無
- b 顎骨膨隆の有無
- c 小石灰化物の有無
- d 骨膜反応の有無
- e 境界の明瞭・不明瞭

- 4 口腔癌の頸部リンパ節転移の診断に有効でないのはどれか。
- a 磁気共鳴画像検査 (MRI)
 - b 超音波検査
 - c エックス線断層撮影
 - d エックス線 CT 検査
 - e シンチグラフィ

5 顎関節において関節円板の位置の診断に有効なのはどれか。

- (1) エックス線 CT 検査
- (2) エックス線断層撮影
- (3) 頭部エックス線単純撮影
- (4) 磁気共鳴画像検査 (MRI)
- (5) 顎関節腔造影検査

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

6 正しい組合せはどれか。

- | | | | |
|---|---------------------|-------|----------|
| a | Behçet 病 | _____ | 網状型白斑 |
| b | 後天性免疫不全症候群 (AIDS) | _____ | 口腔カンジダ症 |
| c | Stevens-Johnson 症候群 | _____ | カフェ・オーレ斑 |
| d | 特発性血小板減少性紫斑病 | _____ | 歯肉肥大 |
| e | 鉄欠乏性貧血 | _____ | 地図状舌 |

7 25歳の女性。局所麻酔中に胸内苦悶を訴えた。顔面はやや紅潮し、脈拍 95 回/分で不整はなく、血圧 150/85 mmHg、呼吸数 23 回/分、経皮的酸素飽和度は 100% であった。やがて意識が混濁し、全身けいれんを呈している。

使用すべき薬剤はどれか。

- a ミダゾラム
- b ニフェジピン
- c ペンタゾシン
- d 副腎皮質ステロイド薬
- e フルマゼニル

- 8 神経原性ショックで正しいのはどれか。
- a 強度の精神的ストレスが誘因となる。
 - b 反射性の交感神経抑制に起因する。
 - c 頻脈がみられる。
 - d 初期には顔面紅潮がみられる。
 - e ジクロフェナクナトリウムが有効である。

9 67歳の女性。洗顔時の顔面部の一過性の激しい痛みを主訴として来院した。痛みは1か月前に突然発症し、次第に強くなり、発症頻度も高くなってきたが、痛み発作のないときは何ら自覚症状がないという。

まず行うべき処置はどれか。

- a 眼窩下神経のアルコールブロック
- b 正円孔での局所麻酔薬によるブロック
- c 上顎結節への浸潤麻酔
- d ジクロフェナクナトリウムの経口投与
- e カルバマゼピンの経口投与

10 口蓋裂を伴うことが多いのはどれか。

- a Papillon-Lefèvre 症候群
- b Albright 症候群
- c 基底細胞母斑症候群
- d Treacher-Collins 症候群
- e Gardner 症候群

- 11 口蓋裂児の口蓋閉鎖術にあたり、目安となる時期はどれか。
- a 上顎乳切歯が萌出し始めるころ
 - b 言葉を話し始めるころ
 - c 離乳食を食べ始めるころ
 - d 体重が5 kg を超えるころ
 - e つかまり立ちを始めるころ

12 50歳の男性。左側顎下部の腫脹と疼痛とを主訴として来院した。腫脹は数年前から繰り返していたという。初診時、顎下部の腫脹は母指頭大で弾性硬であった。初診時の口腔内写真(別冊 No. 1A)と消炎後の造影エックス線写真(別冊 No. 1B)とを別に示す。

手術に際し、損傷に注意すべき神経はどれか。

- (1) 頬神経
- (2) オトガイ神経
- (3) 舌咽神経
- (4) 顔面神経
- (5) 舌神経

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)



13 口蓋の多形性腺腫の特徴はどれか。

- a 小児期に好発する。
- b 硬軟口蓋移行部に好発する。
- c 知覚麻痺を伴う。
- d び慢性の骨吸収をする。
- e 転移しやすい。

14 7歳の男児。左側耳下腺の有痛性腫脹を主訴として来院した。初診時の体温は38.6℃で、2日後には右側耳下腺と両側の顎下腺も有痛性に腫脹した。

診断に有用なのはどれか。

- (1) 血球検査
- (2) ウイルス血清学的検査
- (3) 自己抗体検査
- (4) 細菌検査
- (5) 唾液腺造影検査

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

15 鎖骨頭蓋骨異形成症にみられるのはどれか。

- (1) 赤い平滑舌
- (2) 両眼隔離
- (3) 大泉門の晩期開存
- (4) 埋伏歯
- (5) 上顎の劣成長

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

16 Melkersson-Rosenthal 症候群にみられるのはどれか。

- (1) 顔面神経麻痺
- (2) 肉芽腫性口唇炎
- (3) 難 聴
- (4) 歯肉出血
- (5) 多発性骨腫

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

17 上歯槽神経が障害されるのはどれか。

- (1) Le FortⅠ型骨折
- (2) Le FortⅡ型骨折
- (3) Le FortⅢ型骨折
- (4) 頬骨弓骨折
- (5) 上顎骨縦骨折

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

18 口腔粘膜の結核性潰瘍の特徴はどれか。

- (1) 外形が不規則である。
- (2) 辺縁が隆起している。
- (3) 周辺に硬結がある。
- (4) 潰瘍底が鮮紅色である。
- (5) 穿掘性である。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

- 19 口腔悪性黒色腫で誤っているのはどれか。
- a 上顎に好発する。
 - b 血行性に転移する。
 - c 腫瘍の周囲に色素斑を伴うことが多い。
 - d 早期から疼痛を伴う。
 - e 易出血性である。

20 誤っている組合せはどれか。

- a Küttner 腫瘍 ————— 分泌腺実質の萎縮
- b 多形性腺腫 ————— 腫瘍実質に粘液腫様組織
- c 腺様嚢胞癌 ————— 小腔を含む篩状の胞巣形成
- d 粘表皮癌 ————— 軟骨様組織
- e Warthin 腫瘍 ————— リンパ性組織を伴う管腔様構造

21 40歳の女性。上下顎歯肉と口蓋粘膜のびらん形成を主訴として来院した。びらんは1か月前に発症し増大してきたという。疼痛による食物摂取困難を伴っており、健常歯肉を擦過したところ表皮は容易に剥がれ出血性びらんとなった。

投与すべき薬剤はどれか。

- (1) 副腎皮質ステロイド薬
- (2) 免疫抑制薬
- (3) 抗真菌薬
- (4) ビタミンA
- (5) 抗ウイルス薬

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

22 口腔癌の TNM 分類で正しいのはどれか。

- a T1 は原発腫瘍の最大径が 3 cm 以下のもの
- b T3 は原発腫瘍が隣接他組織へ浸潤したもの
- c N1 は同側の単発性リンパ節転移で 3 cm 以下のもの
- d N3 は両側性リンパ節転移のもの
- e MX は遠隔転移を認めるもの

23 顎関節脱臼の整復法はどれか。

- a Millard 法
- b Langenbeck 法
- c Obwegeser 法
- d Partsch 法
- e Hippocrates 法

24 腺様歯原性腫瘍の特徴はどれか。

- (1) 下顎大白歯部に好発する。
- (2) 30～40 歳代に好発する。
- (3) 発生頻度は歯牙腫より高い。
- (4) エックス線像では散在性の不透過物を認める。
- (5) 腺管状構造やエナメル髓様細胞がみられる。

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

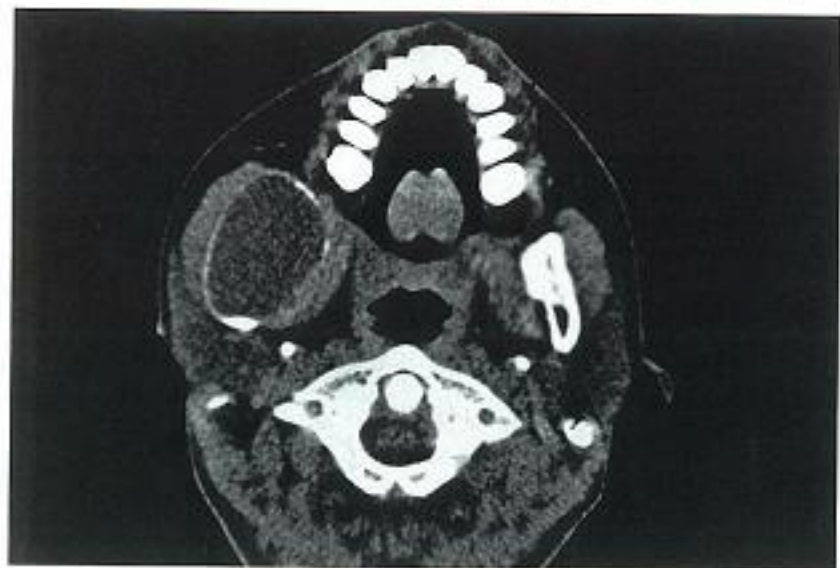
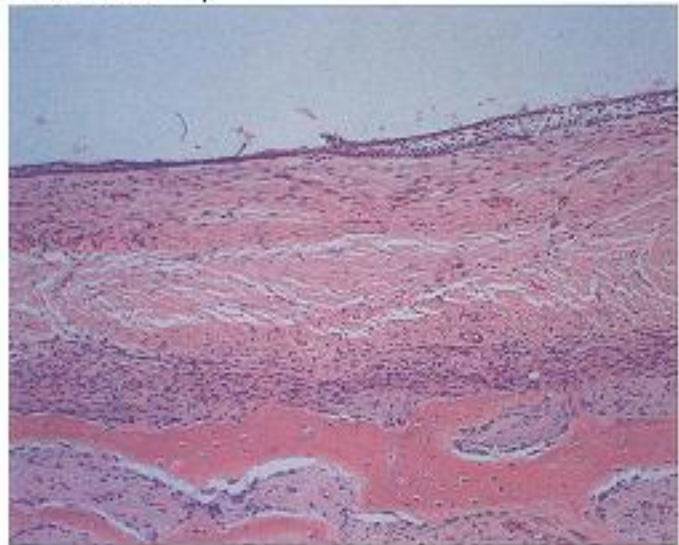
25 真性三叉神経痛の特徴はどれか。

- a 第一枝に好発する。
- b 持続性の鈍痛を呈する。
- c Valleix の圧痛点を認める。
- d 疼痛領域の知覚は低下する。
- e 非ステロイド系消炎鎮痛薬が著効を示す。

26 13歳の男子。右側頬部の腫脹を主訴として来院した。1週前に同部に腫脹と疼痛とが出現したが、5日間の抗菌薬服用後、疼痛は軽減したという。初診時のエックス線写真(別冊No. 2A)、CT写真(別冊No. 2B)および生検時の病理組織像(別冊No. 2C)を別に示す。

適切な治療方針はどれか。

- a 掻 爬
- b 7の抜歯
- c 開窓後に摘出
- d 下顎骨区域切除
- e 下顎骨半側切除



27 54歳の男性。上顎歯肉の腫瘍を主訴として来院した。4か月前に腫瘍に気づき手術を受けたが、1か月後に再び膨隆し徐々に増大しているという。初診時の口腔内写真(別冊No. 3A)、エックス線写真(別冊No. 3B)および生検時の病理組織像(別冊No. 3C)を別に示す。

適切な治療法はどれか。

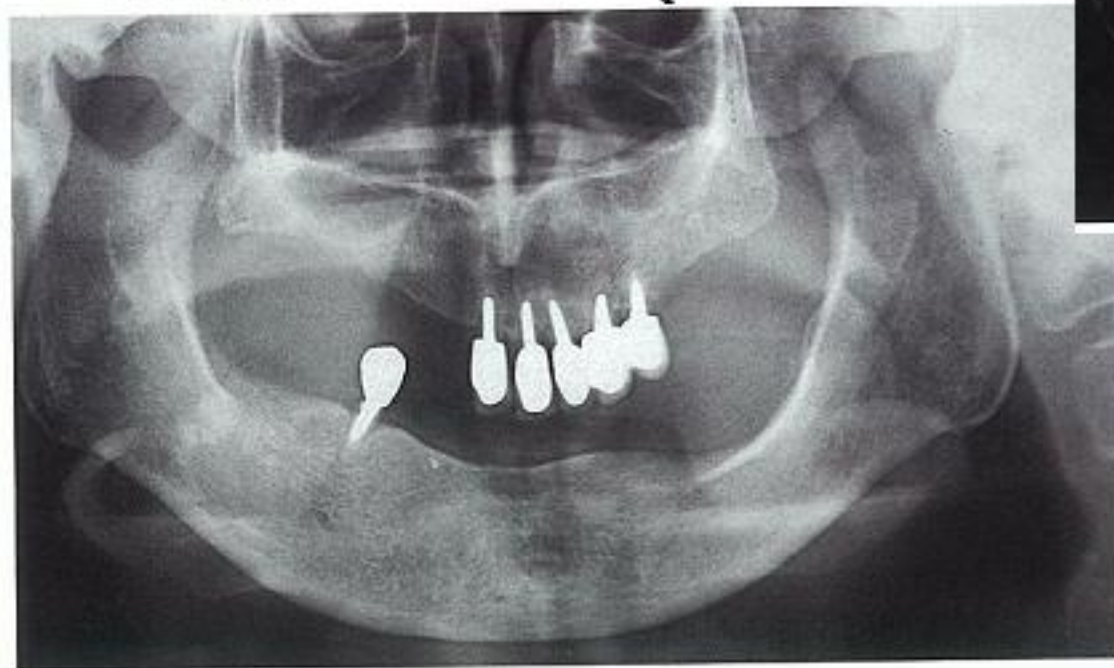
- a 1 2の感染根管治療
- b 1 2の抜歯
- c 腫瘍摘出術
- d 腫瘍摘出術と1 2の抜歯
- e 上顎骨部分切除術



28 73歳の女性。嚥下痛を主訴として来院した。3か月前に咽頭痛が出現し、咽頭の精査を受けたが異常はなかったという。口腔粘膜に異常はないが、右側舌下小丘部から排膿があり、右側顎下部に圧痛を認める。初診時のエックス線写真(別冊No. 4A)とCT写真(別冊No. 4B)とを別に示す。

考えられる診断名はどれか。

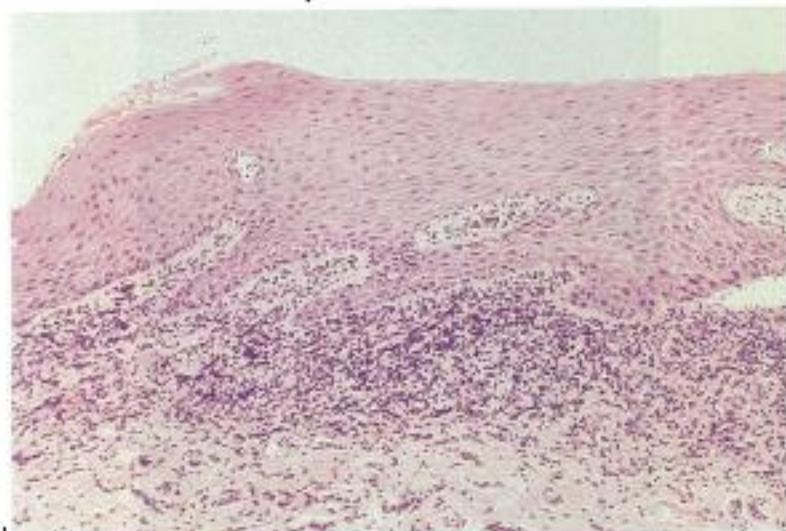
- a 顎下リンパ節炎
- b 顎下腺唾石症
- c 舌咽神経痛
- d 三叉神経痛
- e 下顎骨骨髓炎



29 51歳の女性。左側頬粘膜の疼痛を主訴として来院した。8か月前に粗糙感に気づき、3か月前から刺激のある食物で痛みを感じるようになったという。初診時の口腔内写真(別冊No. 5A、B)と生検時の病理組織像(別冊No. 5C)とを別に示す。

適切な治療法はどれか。

- a 副腎皮質ステロイド軟膏塗布
- b 抗真菌薬軟膏塗布
- c 抗結核薬内服
- d 切除と皮膚移植
- e 放射線治療



30 32歳の男性。右側頬粘膜の異常を主訴として来院した。数日前に同部の異常に気付いたという。初診時の口腔内写真(別冊No. 6)を別に示す。

主訴に対する適切な対応はどれか。

- a 治療は不要
- b ビタミンA投与
- c 副腎皮質ステロイド軟膏塗布
- d 抗真菌薬軟膏塗布
- e 切除と皮膚移植



31 66歳の女性。開口困難を主訴として来院した。3日前に左側顔面を強打したという。左側上唇の知覚麻痺を認めるが、眼症状はない。歯列および咬合の異常もない。初診時の顔貌写真(別冊No. 7A)とCT写真(別冊No. 7B、C)とを別に示す。

診断名はどれか。

- a Le Fort I型骨折
- b Le Fort II型骨折
- c Le Fort III型骨折
- d 眼窩底骨折
- e 頬骨・頬骨弓骨折



32 42歳の女性。左側オトガイ部の腫瘍を主訴として来院した。病変部から排膿があるという。下顎両側中切歯に打診痛を認める。初診時の顔面写真(別冊No. 8A)とエックス線写真(別冊No. 8B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。2つ選べ。

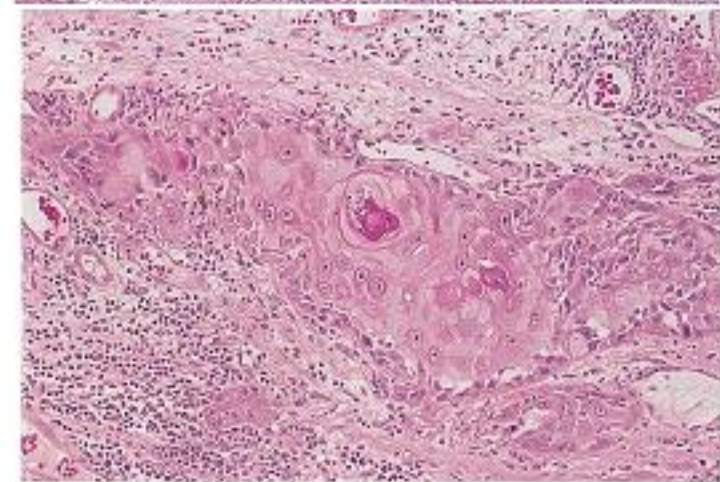
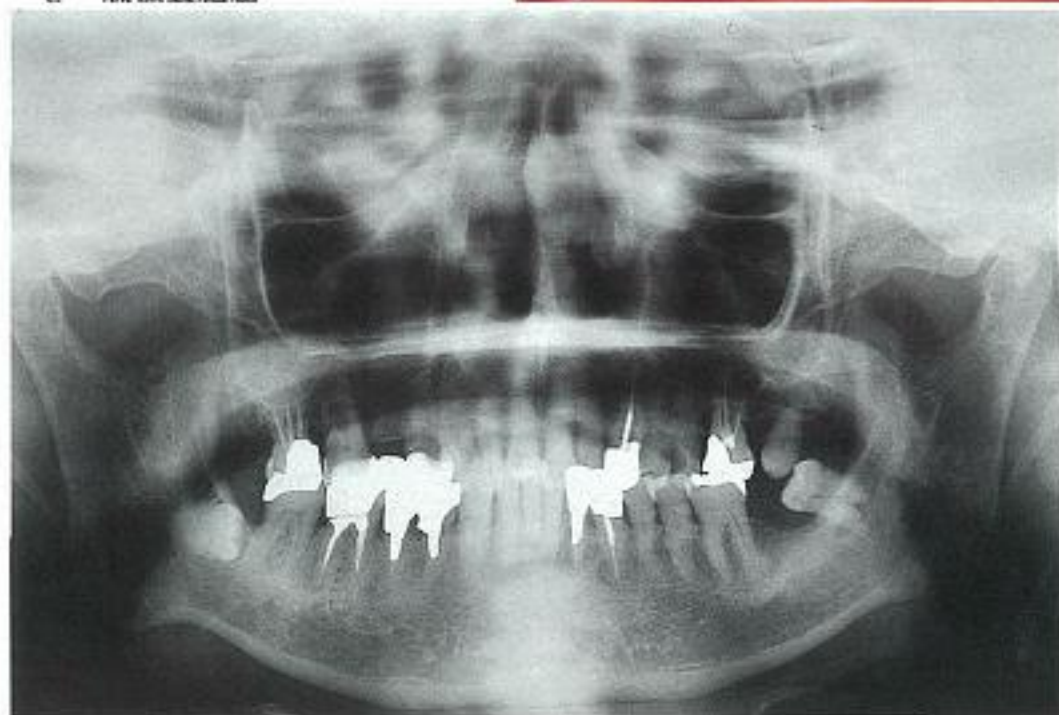
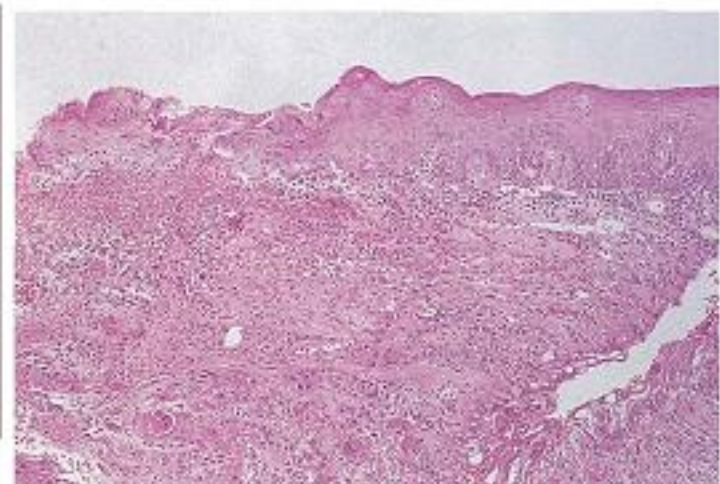
- a 嚢胞摘出術
- b 皮膚腫瘍切除術
- c 切開・排膿
- d $\overline{1|1}$ の歯根尖切除術
- e $\overline{1|1}$ の抜歯



33 78歳の男性。右側上顎部の疼痛を主訴として来院した。2か月前に腫瘤に気づき、その後徐々に増大しているという。初診時の口腔内写真(別冊No. 9A)、エックス線写真(別冊No. 9B)および生検時の病理組織像(別冊No. 9C、D)を別に示す。

診断名はどれか。

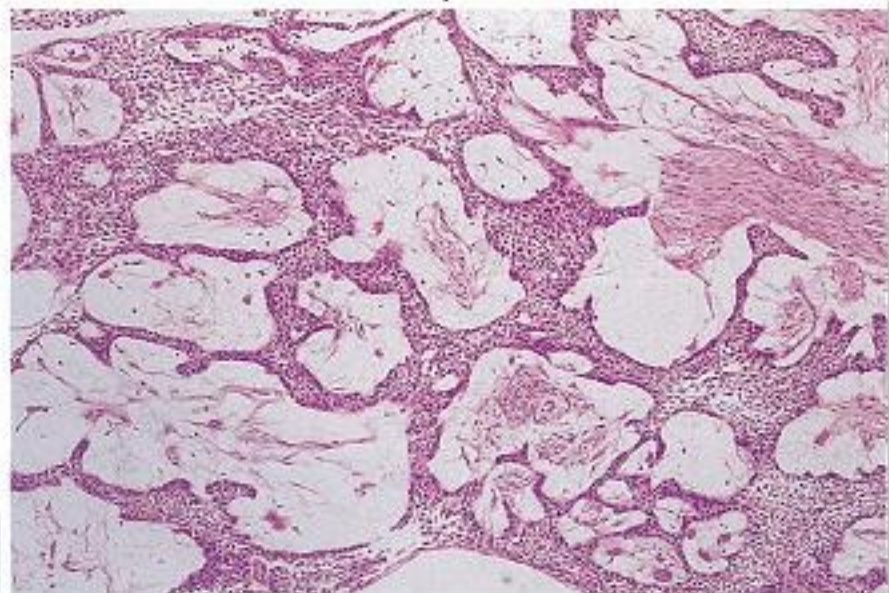
- a 歯性上顎洞炎
- b 肉芽腫性エプーリス
- c 乳頭腫
- d 扁平上皮癌
- e 腺様嚢胞癌



34 11歳の男児。右側下顎部の無痛性腫脹を主訴として来院した。1年前に気づき、その後徐々に増大してきたという。初診時のエックス線写真(別冊No. 10A)と摘出物の病理組織像(別冊No. 10B)とを別に示す。

診断名はどれか。

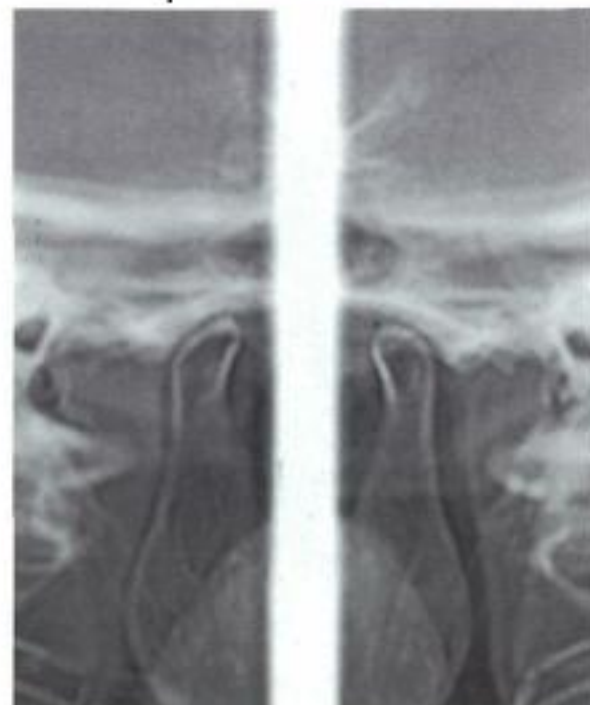
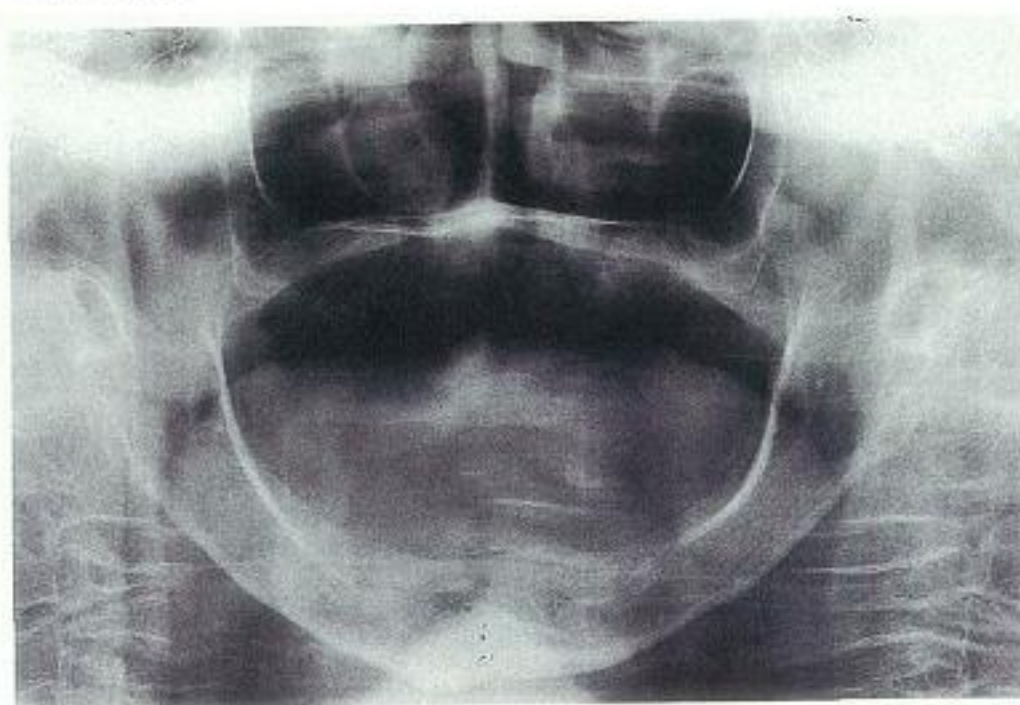
- a 含歯性嚢胞
- b 歯原性角化嚢胞
- c 歯原性線維腫
- d 歯原性粘液腫
- e エナメル上皮腫



35 97歳の女性。閉口不能を主訴として来院した。昨夜、突然噛めなくなったという。初診時の顔貌写真(別冊No. 11A)とエックス線写真(別冊No. 11B、C)とを別に示す。

疑われる診断名はどれか。

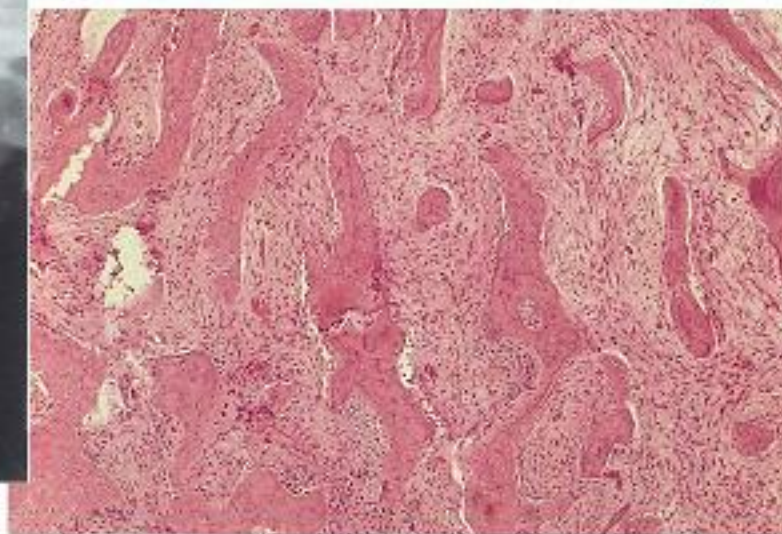
- a 顎関節症
- b 顎関節強直症
- c 顎関節脱臼
- d 関節突起骨折
- e 筋突起骨折



36 18歳の女子。左側頬部の腫脹を主訴として来院した。3か月前に家族に腫脹を指摘されたが疼痛がないので放置していたという。腫脹は骨様硬で圧痛はない。初診時のエックス線写真(別冊No. 12A、B)と生検時の病理組織像(別冊No. 12C)とを別に示す。

診断名はどれか。

- a 歯原性線維腫
- b 歯原性粘液腫
- c 線維性骨異形成症
- d 骨腫
- e 骨肉腫



37 48歳の男性。上顎右側第二小臼歯部歯肉の腫脹を主訴として来院した。1年前に同部の腫脹に気付いたが、その後5]の動揺が高度となり、鼻閉感を生じたという。初診時のエックス線写真(別冊No. 13A、B、C)を別に示す。

疑われる疾患はどれか。

- a 歯性上顎洞炎
- b 粘液貯留嚢胞
- c 化骨性線維腫
- d 線維性骨異形成症
- e 上顎歯肉癌



38 21歳の女性。開口障害を主訴として来院した。2日前にオートバイで走行中に転倒し、オトガイ部を強打したという。初診時のエックス線写真(別冊No. 14A、B)を別に示す。

認められるのはどれか。

- (1) 下顎角部骨折
- (2) 下顎智歯陷入
- (3) 下顎角部遊離骨片
- (4) 下顎骨片偏位
- (5) 下顎骨犬歯部骨折

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| a (1)、(2)、(3) | b (1)、(2)、(5) | c (1)、(4)、(5) |
| d (2)、(3)、(4) | e (3)、(4)、(5) | |



39 21歳の女性。上顎左側第一大臼歯部歯肉の腫脹を主訴として来院した。3か月前に同部の腫脹に気付いたという。初診時のエックス線写真(別冊No. 15A、B)を別に示す。

考えられるのはどれか。

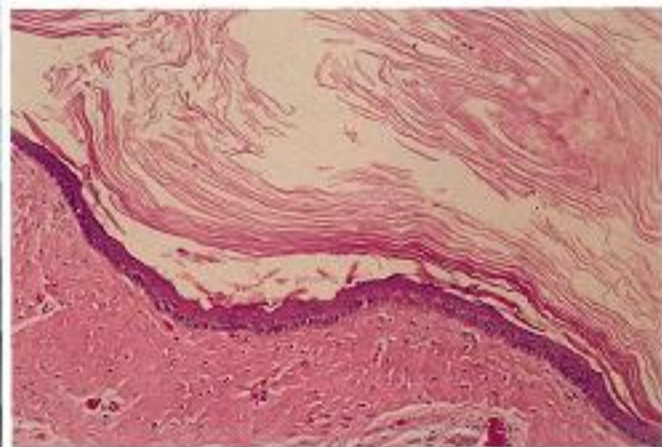
- a 粘液貯留嚢胞
- b 鼻歯槽嚢胞
- c 歯根嚢胞
- d 歯周嚢胞
- e 術後性上顎嚢胞



40 27歳の男性。下顎前歯部の腫脹を主訴として来院した。2年前に気付いたという。腫脹は弾性軟で圧痛はなく、波動を触知する。初診時のエックス線写真(別冊No. 16A、B、C)と生検時の病理組織像(別冊No. 16D)とを別に示す。

診断名はどれか。

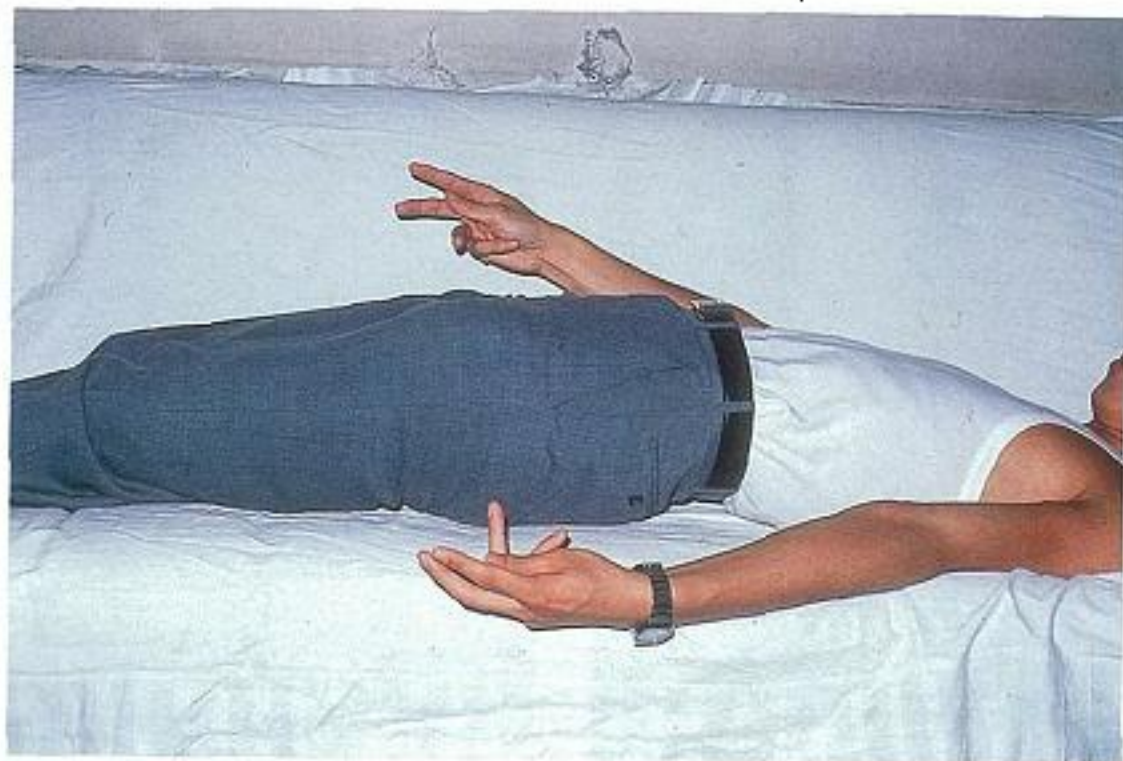
- a エナメル上皮腫
- b 歯原性角化嚢胞
- c セメント質骨形成線維腫
- d 歯原性粘液腫
- e 石灰化歯原性嚢胞



41 22歳の男性。第三大臼歯の動揺を主訴として来院した。抜歯のための局所麻酔中に気分不快と呼吸困難とを訴えたので処置を中止した。間もなくテタニー様症状を引き起こした。その時の写真(別冊No. 17)を別に示す。

適切な処置はどれか。2つ選べ。

- a 昇圧薬投与
- b 硫酸アトロピン投与
- c ジアゼパム投与
- d 呼気再呼吸
- e 純酸素投与



42 28歳の男性。顔面の違和感を主訴として来院した。耳鳴、難聴、めまいなどはなく、顔面や耳介部の皮膚に発赤などの病的所見はない。目を閉じようとした時の顔面写真(別冊No. 18)を別に示す。

治療薬として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a カルバマゼピン
- b 副腎皮質ステロイド薬
- c ビタミンB₁₂
- d 抗菌薬
- e 抗ウイルス薬



43 19歳の女性。下顎左側大白歯部の疼痛を主訴として来院した。1か月前から腫脹、疼痛を自覚したという。初診時のエックス線写真(別冊No. 19A、B、C)を別に示す。

考えられる疾患はどれか。

- a エナメル上皮腫
- b 神経鞘腫
- c 中心性血管腫
- d 単純性骨嚢胞
- e 歯根嚢胞



44 18歳の男子。上顎前歯部の違和感を主訴として来院した。初診時のエックス線写真(別冊No. 20A、B、C)を別に示す。

疑われる疾患はどれか。2つ選べ。

- a 単純性骨嚢胞
- b 歯根嚢胞
- c 原始性嚢胞
- d 鼻口蓋管嚢胞
- e 術後性上顎嚢胞



45 32歳の男性。右側下唇部の損傷を主訴として来院した。1時間前に転倒し、机の角に強打したという。受傷後意識障害はない。初診時の顔面写真(別冊No. 21)を別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 輸血
- b 副腎皮質ステロイド薬投与
- c 抗菌薬投与
- d 止血薬投与
- e 創部縫合



46 28歳の女性。突然の歯肉出血を主訴として来院した。初診時の口腔内写真(別冊 No. 22A、B)を別に示す。血液学検査の結果を表に示す。

血球検査

赤血球数： $342 \times 10^4 / \mu\text{l}$

白血球数： $6,800 / \mu\text{l}$

ヘモグロビン： 9.8 g/dl

血小板数： $11,200 / \mu\text{l}$

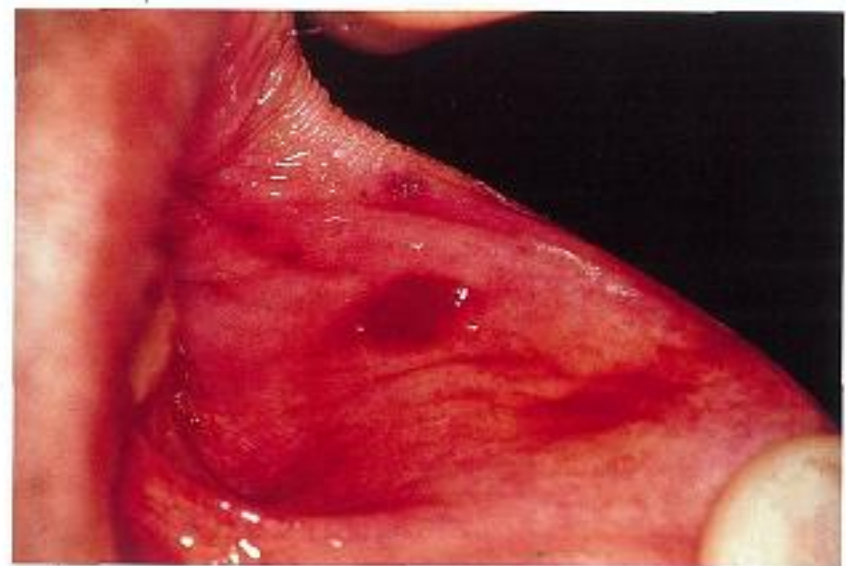
止血機能検査

出血時間：延長

全血凝固時間：正常

APTT : 正常

PT : 正常



考えられる診断名はどれか。

- a 血小板無力症
- b 血小板減少性紫斑病 (ITP)
- c 血友病
- d von Willebrand 病
- e 白血病

47 77歳の男性。口腔の白斑を主訴として来院した。1週間前から舌にヒリヒリした感じとともに白斑が生じ、次第に口腔全体に広がったという。初診時の口腔内写真(別冊No. 23A、B)を別に示す。

有効な薬剤はどれか。2つ選べ。

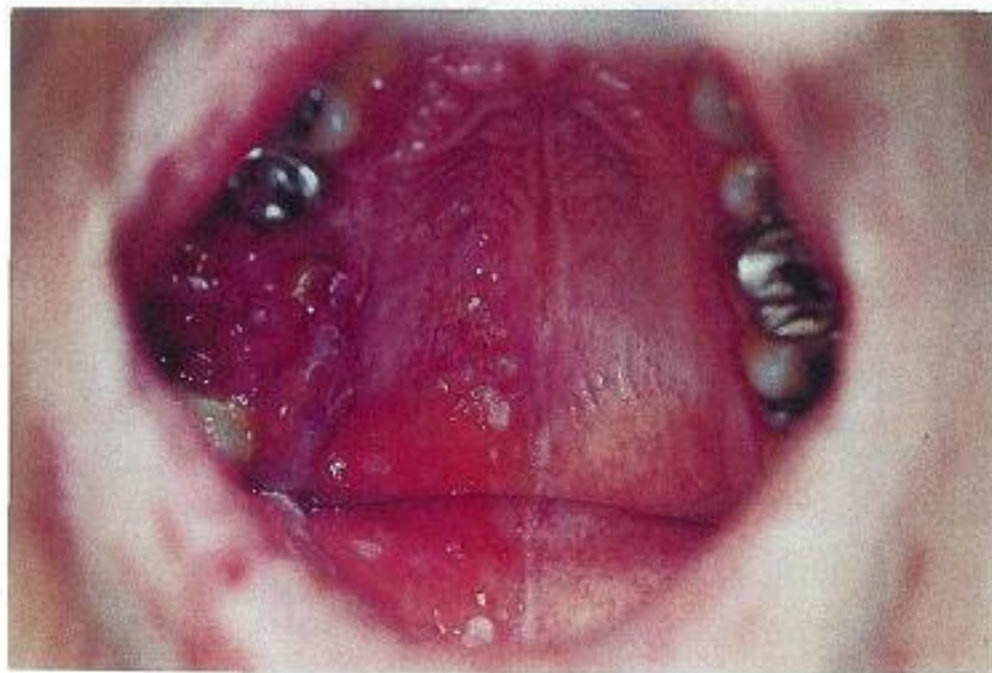
- a 副腎皮質ステロイド軟膏
- b ミコナゾールゲル
- c セフェム系抗菌薬
- d テトラサイクリン系抗菌薬
- e アムホテリシンB



48 27歳の男性。左側顔面の腫脹と口腔の疼痛とを主訴として来院した。2日前にビリビリとした疼痛とともに腫脹し、左側口蓋部にも接触痛を生じたという。初診時の顔貌写真(別冊No. 24A)と口腔内写真(別冊No. 24B)とを別に示す。

有効でない薬剤はどれか。

- a 含嗽薬
- b 副腎皮質ステロイド薬
- c 抗菌薬
- d 非ステロイド系抗炎症薬
- e 抗ウイルス薬



49 13歳の男子。上唇の腫脹を主訴として来院した。3か月前から腫脹してきたが、疼痛はないという。上唇以外の顔貌および口腔粘膜には異常はない。初診時における口唇部の写真(別冊No. 25A、B)を別に示す。

考えられる疾患はどれか。

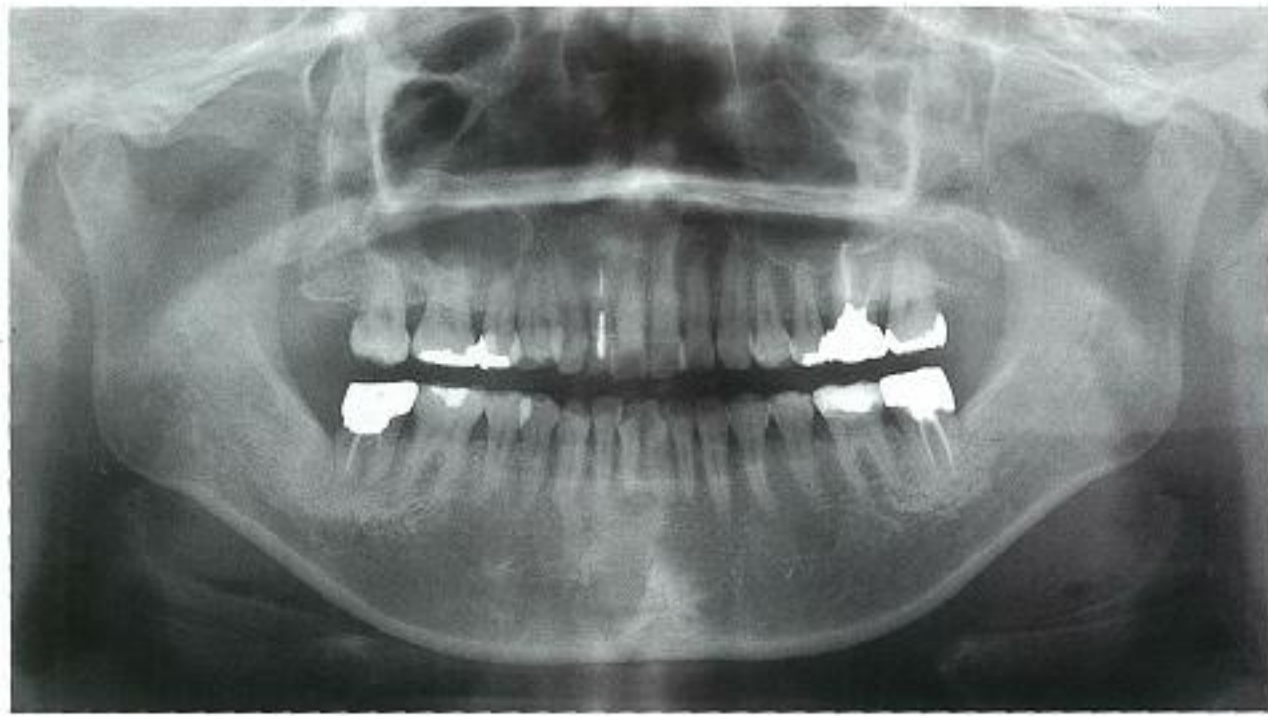
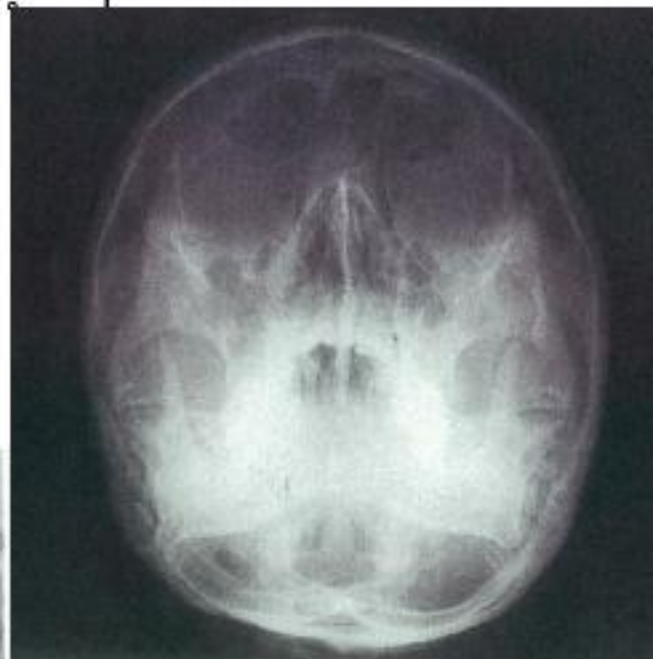
- a 菌性感染の波及
- b Quincke 浮腫
- c 肉芽腫性口唇炎
- d Melkersson-Rosenthal 症候群
- e 腺性口唇炎



50 41歳の女性。右側頬部の違和感を主訴として来院した。15年前に上顎洞根治手術を受けたという。上顎右側大白歯歯肉頬移行部を穿刺したところ、茶褐色で粘稠な内容液が得られた。初診時のエックス線写真(別冊No. 26A、B)を別に示す。

考えられる疾患はどれか。

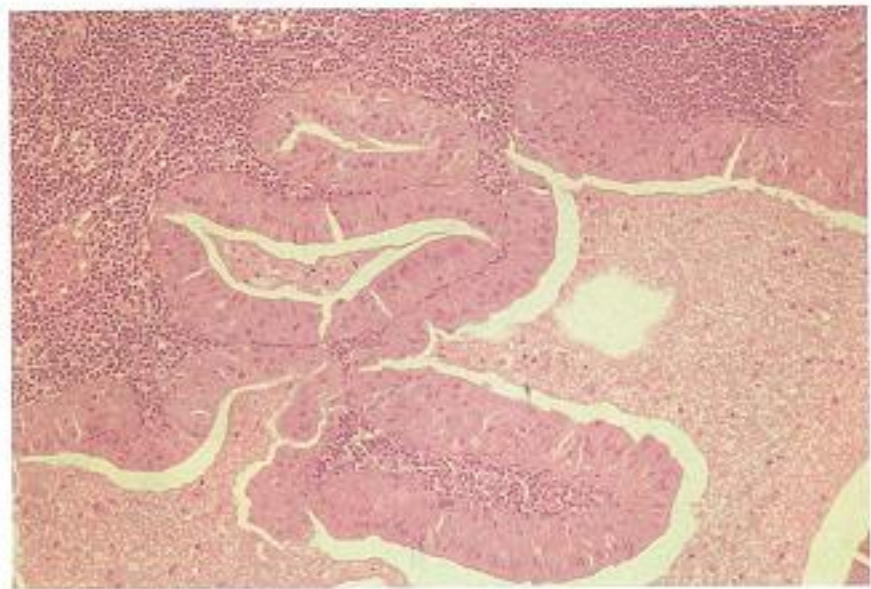
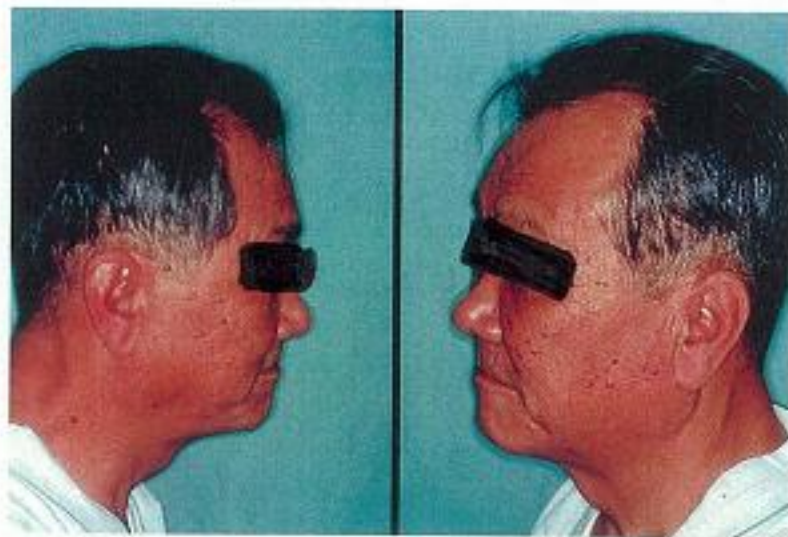
- a 脈瘤性骨嚢胞
- b 歯原性角化嚢胞
- c 上顎洞粘液嚢胞
- d 術後性上顎嚢胞
- e 歯性上顎洞炎



51 60歳の男性。両側耳下腺部の腫瘍を主訴として来院した。4年前に右側、2年前に左側の耳下腺部に腫瘍を生じたという。初診時の顔貌写真(別冊No. 27A)とCT写真(別冊No. 27B)、病理組織像(別冊No. 27C)を別に示す。

診断名はどれか。

- a 慢性耳下腺炎
- b 多形性腺腫
- c Warthin腫瘍
- d Küttner腫瘍
- e 粘表皮癌



52 71歳の男性。下顎左側歯槽部の疼痛を主訴として来院した。3年前、咽頭部扁平上皮癌のために放射線治療を受けたという。初診時の口腔内写真(別冊No. 28A)とエックス線写真(別冊No. 28B)とを別に示す。

次に行うべき検査法はどれか。

- (1) 骨密度検査
- (2) 超音波検査
- (3) エックス線 CT 検査
- (4) シンチグラフィ
- (5) 病理組織学検査

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| a (1), (2), (3) | b (1), (2), (5) | c (1), (4), (5) |
| d (2), (3), (4) | e (3), (4), (5) | |



53 34歳の男性。口腔内の疼痛を主訴として来院した。4日前38.0℃の発熱があり、その後口唇と歯肉とに接触痛を生じたという。血液学検査で、赤血球数 $458 \times 10^4/\mu\text{l}$ 、白血球数 $5,300/\mu\text{l}$ であった。初診時の口腔内写真(別冊No. 29A、B、C)を別に示す。

適切な処置はどれか。

- (1) 補液
- (2) 含嗽薬投与
- (3) 抗真菌薬投与
- (4) 副腎皮質ステロイド薬投与
- (5) 抗ウイルス薬投与

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

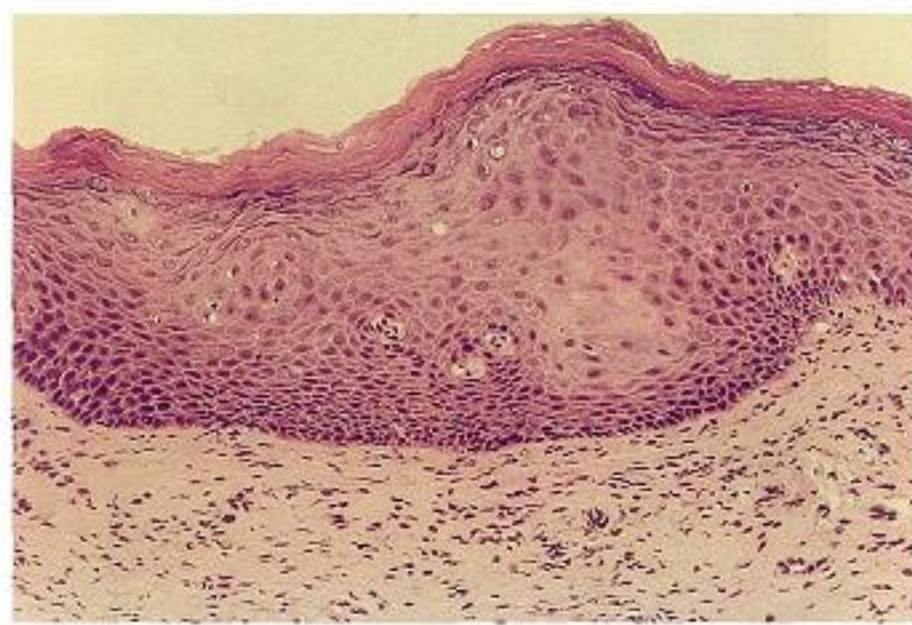
e (3)、(4)、(5)



54 62歳の男性。右側舌縁部の白斑を主訴として来院した。3か月前に気付いたが、疼痛はなかったという。初診時の口腔内写真(別冊No. 30A)と生検時の病理組織像(別冊No. 30B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

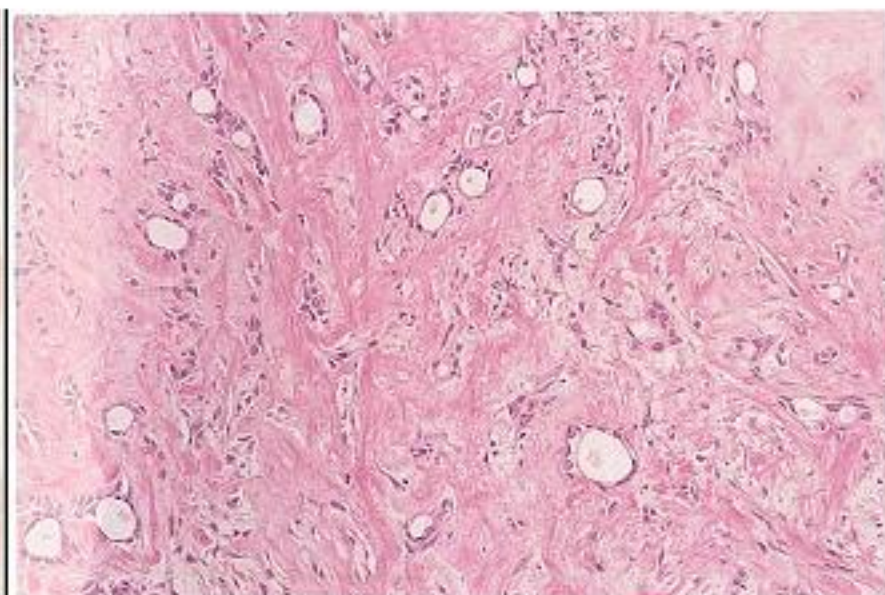
- a 副腎皮質ステロイド軟膏塗布
- b 抗真菌薬投与
- c ビタミンC投与
- d 切除
- e 放射線治療



55 64歳の女性。左側口蓋部の腫瘤を主訴として来院した。初診時の口腔内写真(別冊No. 31A)と生検時の病理組織像(別冊No. 31B)とを別に示す。

診断名はどれか。

- a 歯槽膿瘍
- b 粘液腫
- c 線維腫
- d 多形性腺腫 ;
- e 扁平上皮癌



56 ADLの指標でないのはどれか。

- a 入 浴
- b 歯磨き
- c 衣服の着脱
- d 移 動
- e 食 事

57 食物摂取と齲蝕発生との関係で正しいのはどれか。

- (1) 歯垢内で産生される酸は単糖類より多糖類からの方が多い。
- (2) 食事中の甘味飲料の影響は大きい。
- (3) 糖質の中ではショ糖が最も齲蝕誘発性が強い。
- (4) 繊維質に富む食品は清掃性食品とされる。
- (5) キャラメルは潜在脱灰能の大きい食品である。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

58 学校の健康診断で CO を見極めるのに適切なのはどれか。

- a 口腔内写真撮影
- b 咬翼法エックス線撮影
- c 鋭利でない探針による触診
- d 齲蝕検知用薬剤の使用
- e ミュータンスレンサ球菌の検出

59 刷毛の角度が歯軸に対して 45 度である刷掃法はどれか。

- a 水平法
- b 垂直法
- c フォーンズ法
- d バス法
- e チャーターズ法

60 ブラッシングの効果判定に用いられるのはどれか。

a PHP

b CFI

c RID

d CPI

e DAI

61 PMTC に含まれるのはどれか。

- (1) 予防填塞
- (2) 歯周ポケット搔爬
- (3) 術者磨き
- (4) 歯面研磨
- (5) フッ化物歯面塗布

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

62 健康日本 21 の目標に該当しないのはどれか。

- a 歯の喪失の防止
- b 幼児期のう蝕予防
- c 学齢期のう蝕予防
- d 成人期の歯周病予防
- e 高齢者の義歯管理

63 歯周疾患予防の組合せで正しいのはどれか。

- (1) ブラッシング ————— 第3次予防
- (2) 歯周補綴処置 ————— 第3次予防
- (3) 歯周疾患検診 ————— 第2次予防
- (4) 抗菌薬の投与 ————— 第1次予防
- (5) 歯周ポケット測定 ————— 第1次予防

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

- 64 ヒトの歯の値より大きいのはどれか。
- a アクリルレジン of 弾性係数
 - b コンポジットレジンの熱膨張係数
 - c リン酸亜鉛セメントのヌープ硬さ
 - d グラスアイオノマーセメントの圧縮強さ
 - e コンポジットレジンの密度

65 硬化熱処理が有効なのはどれか。

- a 低融銀合金
- b 金銀パラジウム合金
- c コバルトクロム合金
- d Type 1 金合金
- e 22 K 金合金

66 ろう付け時にフラックスとしてホウ砂を使用するのはどれか。

- a チタン
- b コバルトクロム合金
- c ニッケルクロム合金
- d 低融銀合金
- e 金銀パラジウム合金

67 クラスプ用材料で適切でない性質はどれか。

- a たわみ性
- b 剛 性
- c クリープ
- d 適合性
- e 疲労強さ

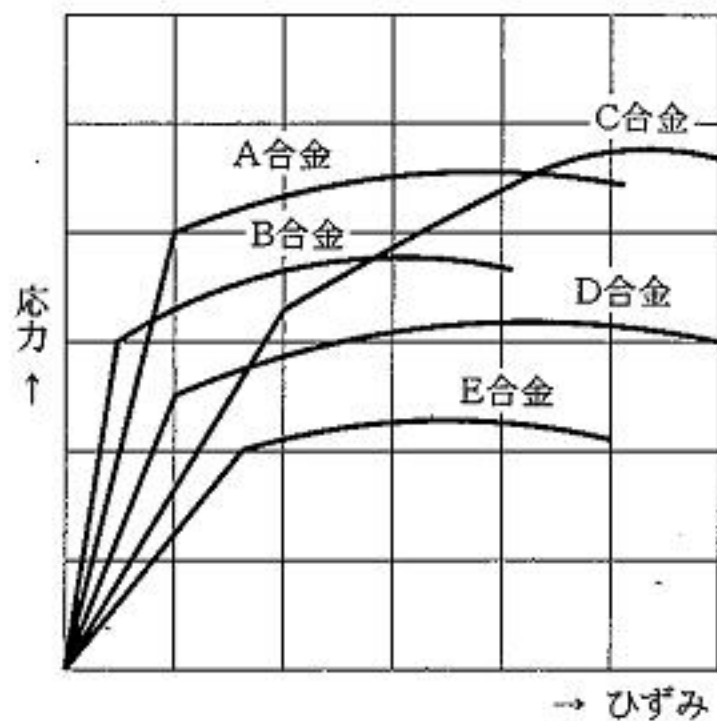
68 融解温度が最も高いのはどれか。

- a Type 1 金合金
- b Type 4 金合金
- c 14 K 金合金
- d 陶材焼付用金合金
- e 金銀パラジウム合金

69 熱膨張係数がエナメル質よりも小さいのはどれか。

- a 金合金
- b 陶 材
- c アマルガム
- d コンポジットレジン
- e アクリルレジン

70 引張試験を行った5種の歯科用合金の応力-ひずみ曲線を図に示す。



正しいのはどれか。

- a A合金は比例限が最も大きい。
- b B合金は弾性係数が最も小さい。
- c C合金は伸びが最も大きい。
- d D合金は耐力が最も小さい。
- e E合金は弾性限が最も大きい。